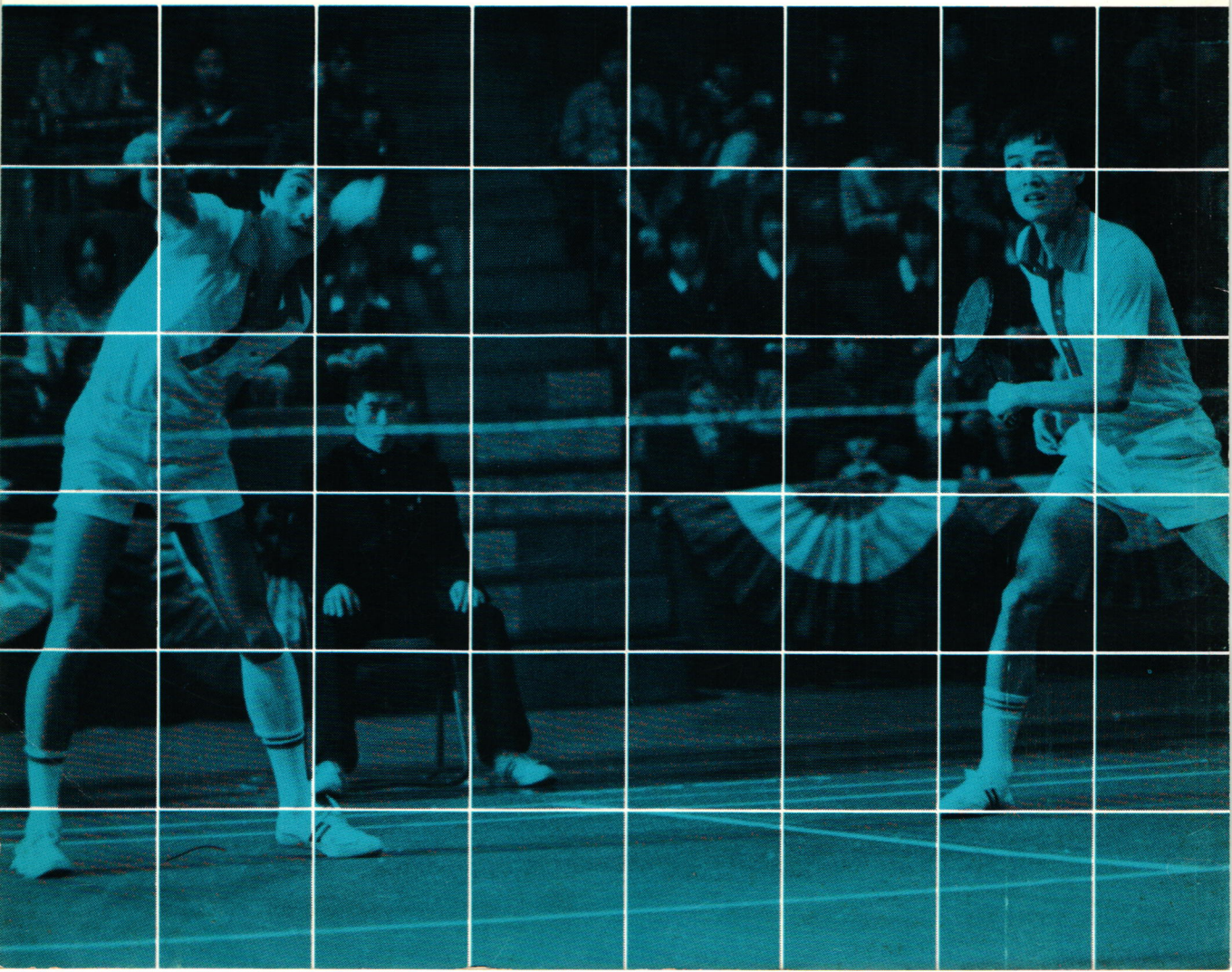
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和53年2月15日発行（毎月1回15日発行通巻第100号）

バドミントン2

日本バドミントン協会　The Badminton World No.100　1978



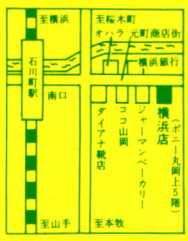
ラケットショップ元町

●渋谷店



渋谷区渋谷1−25−6 〒150
☎03(400)7390

●横浜店

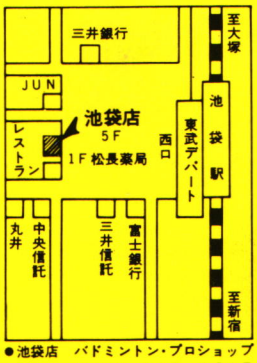


横浜市中区元町5−203 〒231
元町スカイビル5階
☎045(651)2020

3/4 OPEN

池袋店

OPEN記念セール
3/4〜3/13



●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎ 03−988−0215



創刊100号記念増大号

——第7回国際バドミントン競技大会・対抗戦——

土田"世界一"のカベに屈す ……2

デルフス・スコブガード 4メートルダブルスを披露〈新潟大会〉

巧者コーペン 近藤を降す ……5

銭谷 スティーブンスにストレート負け〈京都大会〉

銭谷 サットンの攻撃にあわてず ……6

不調・湯木はコーペンに完敗〈岐阜大会〉

デルフス 余裕の完勝 ……9

飯野・土田組 土つかず〈九州大会〉

新・ガッツ小島の体当り実戦教室⑩ ——小島一平

1カ月間のインド遠征 ……12

エツコのバドミントン・ライフ⑧ ——栂野尾悦子

オールジャパン初優勝 ……14

われらのクラブ⑨ ——ブーナ・クラブ

"宴会"は日本一 ……16

分析シリーズ① ——関根義雄/平川卓弘

バドミントンの時間分析 ……36

◎写真をお分けいたします／41

◎海外トピックス(友枝康子)／42

◎北から南から(読者投稿)／44

◎バインダーのお知らせ／46

◎バックナンバー一覧表／47

◎お知らせ～編集室から／48

☆グラフ①——国際大会・対抗戦から

☆グラフ②——オール・ジャパン'77に見る実戦テクニック

◇表紙デザイン・構成＝野間デザイン室／表紙・本文写真＝赤星三樹(使用カメラ・レンズ、アサヒペンタックスMX SMC-P-M 50/1.4)/現像＝樋口哲也

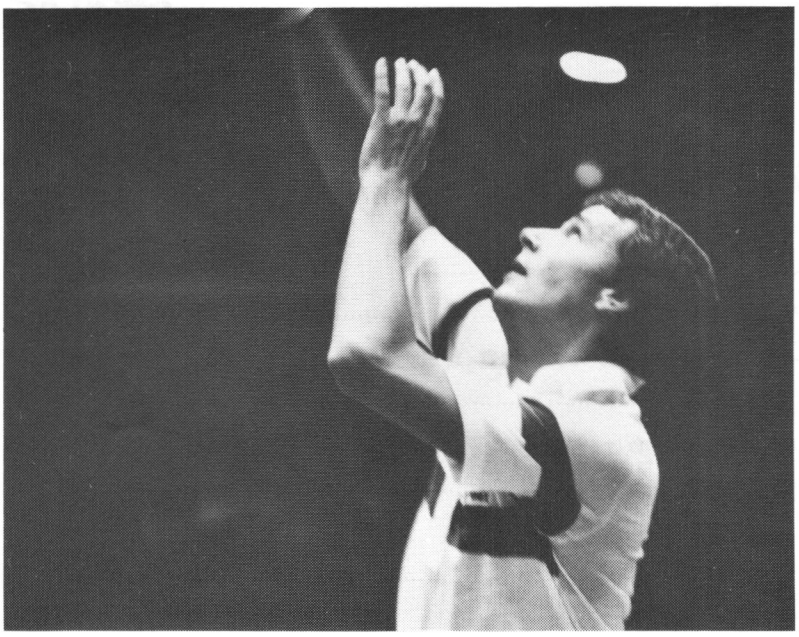
◇今月の表紙＝オール・ジャパン'77男子複に優勝した飯野佳孝・土田証雄(ヨネックススポーツ・電電東京)組

第7回国際バドミントン競技大会

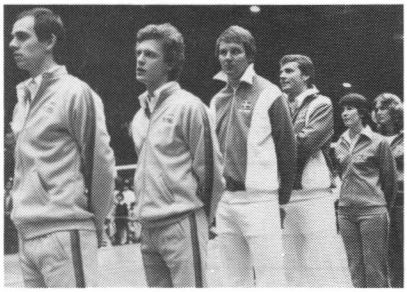
新潟大会
1／16

土田〝世界一〟のカベに屈す

デルフス・スコブカード 4メートルダブルスを披露



▲世界一の実力をみせたデルフス



◀ヨーロッパ・チーム

国際バドミントン競技会も今年で7回目を迎え、イギリス、デンマーク、オランダ、スウェーデンから12名もの選手が来日。新潟、京都、岐阜、熊本、福岡と転戦、各地で妙技を披露した。

なかでも、シングルスの世界チャンピオン、デルフス（デンマーク）、コーペン（デンマーク）が人気を集め、各地とも満員の盛況ぶりだった。

対抗戦の通算成績は、3—2と欧州選抜に軍配が上ったが、日本選手も大いに健闘して、東京大会の最終戦での熱戦が期待される。

●新潟大会（1・16）

○欧州選抜　3—2　全日本

▽男子シングルス

デルフス（デンマーク）　2（15—8　15—10）　0　土田

▽女子シングルス

ベリー（イギリス）　0（4—11　6—11）　2　植野

▽男子ダブルス

デルフス　スコブガード（デンマーク）　2（18—14　15—11）　0　小島　鈴木裕

キールス　トロム　フローマン（スウェーデン）　0（4—15　11—15）　2　飯野　土田

▽女子ダブルス

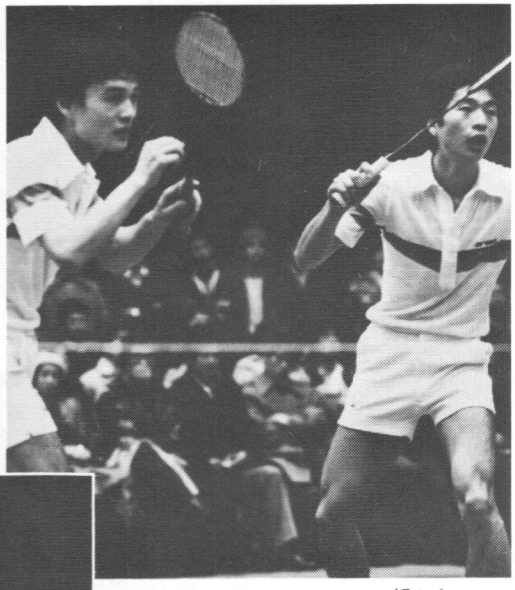
ベリー　サットン（イギリス）　2（15—11　18—16）　0　関根　大塚

デルフス〝変身〟

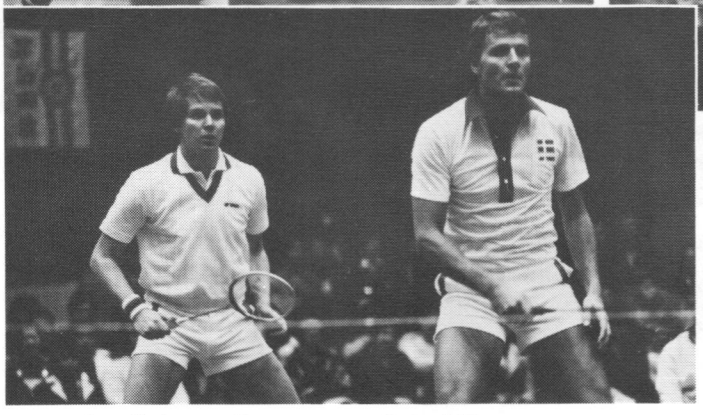
昨年来日したときは、ひょうきんな仕草で観衆をわかせたプリとは好対照に、基本的なプレーに徹していたデルフスだったが、世界チャンピオンとなって余裕が出てきたのか、今年は観

▼前衛のうまいラケットさばきをみせてくれたペリー・サットン組





▲キールストロム・フローマン組から初の一勝をあげた飯野・土田組



▲4メートルダブルス　デルフス・スコブガード組

客を喜ばすサービス精神も忘れてはいなかった。

試合開始から、デルフスは頻繁にフェイントを繰り出す。1—0と土田幸先のいいスタートを切りながら、フェイントに面くらったのか後続がなく、得意のスマッシュもサイドラインを割ってあっさりと逆転を許す。

デルフスは〝サービス精神〟優先のフェイントで土田を翻弄。その切れ味のよさには、日本ベンチからも驚嘆の声が上がる。4—1、9—4、11—7と、デルフスが常にセーフティリードを保って淡々とゲームは進行。14—9からやっと土田らしいクロス・スマッシュが決ってサービス権を移動。続けて今度はフォア・サイドへ逆クロス・スマッシュを放って、1ポイントを返すが、そこまでがやっと。

脅威的なバックハンドの強さを見せるデルフスは、2ゲーム目に入っても余裕しゃくしゃく。ハイバックからも攻撃的なクロスカットを打たれては、土田も手の施しようがなく、〝格〟の違いをみせて、勝負が決した。

植野、確実性で上回る

女子シングルスに登場したペリー、植野はともにダブルス・プレーヤーとして定評のある選手だが、確実性、体力の面で、植野がやや優っていた。

第1ゲーム前半は、ペリーのバックハンドからの引きつけて落とすヘアピンが、うまくフェイント効果となって、6—1とペリーがリード。しかし植野もじっくりと構え、丁寧に四隅へシャトルを散らして6—6のタイとし、ペリーのカットミスなどの凡ミスに乗じて、一気に第1ゲームを奪う。

第2ゲームも、植野のペースで単調な展開。あっという間に9—1と大勢を決め、この後ペリーの強力なバックスマッシュなどが飛び出したが、難なく後を締めくくった。

高し！4メートルペア

〝地元〟新潟の声援に包まれ晴れの檜舞台を踏む鈴木は、大ベテラン小島とコンビを組んでもまだ緊張ぎみ。

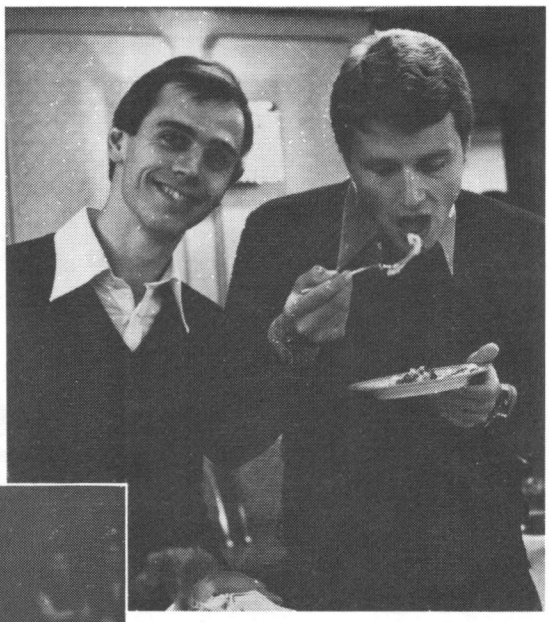
それもそのはずである。初出場に加え、対するデルフス・スコブガード組は、2人合わせると約4メートルという上背の持ち主。小島・鈴木組の2人合わせて3・3メートルとは、なんと70センチもの差がある。

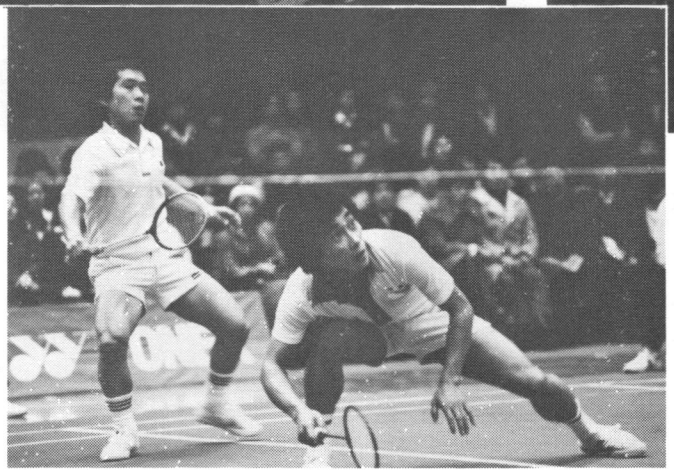
しかし、上背にモノをいわせて荒々しい攻撃を仕掛けてくる外国勢を向うに回し、小島・鈴木は小柄な体をいっぱいに走らせてよく拾い、好対照の面白い

▼ワインで乾杯　サットンとペリー



▼何を語る　キールストロムとデルフス





▶けんめいのレシーブ　小島・鈴木組

試合を見せた。

1ゲーム目、ドスンドスンと大砲のような外国勢のスマッシュが、サイド・バイ・サイドに構える小島・鈴木組の、手の届かない前へ落ちて、両者とも苦笑い。スコブガードが思い切り叩くと、前衛の鈴木に見事に命中。鈴木はじだんだ踏んで悔しがる一場面もあって、満員の観衆は大喜び。

10オールまでは一進一退を続けたが、そこから攻撃と守備の差が出てくる。

2ゲームになってからも、日本ペアはよく健闘。じりじりと追いついてセッティングに持ちこむが、またしてもそこから打点の高さを見せつけられて惜しい星を落とした。

飯野・土田　ニシキ飾る

飯野・土田組が、過去に1勝も挙げていないのが嘘のような、この日のキールストロム・フローマン戦だった。

第1ゲームから、飯野のスマッシュが面白いように決まり、たちまち9—0と、一方的なリード、レシーブに乱れを見せるキールストロム・フローマンも懸命に食い下がったが、前へ前へと速いタッチで押しぎみの飯野・土田は、難なくこれを振り切る。

第2ゲームになっても、飯野・土田の快進撃は続き、またしても9—1と突き放す。

後半も、万全を期した攻めでついに完勝。

一回りも二回りも大きくなった飯野・土田。まさに〝故郷に錦を飾る〟図だった。

バックスマッシュの威力

関根・大塚も地元の期待に応えて頑張ったが、歴戦のつわものペリー・サットンのヨーロッパ・スタイルのダブルスを打ち破ることができなかった。

第1ゲーム前半、ペリーの前衛、サットンの後衛でのミスに助けられて、関根・大塚が7—1とリードを奪う。

しかし、イギリス・ペアも中盤からカットをうまく散らしてリズムを取り戻し、9オールのタイ。サットンのスマッシュがネットテープへ連続して当たる間に、関根・大塚が先に13ポイントを握る。が、ここで大塚の痛いサービスミスが2本続いて得点にならない。セッティングの一進一退も、ペリーの男優りのバックスマッシュがクロスに決ってケリ。

完全に波に乗ったペリー・サットンは、ともにイギリス伝統の前衛が冴え、後衛からも相手の動きを読み取りクリアーを多用。浅い返球を見事に処理して若い日本ペアを下した。

〈お知らせ〉

先月号でお知らせしました、来日予定選手のうち、カレン・パティック選手（イングランド）に代り、バーバラ・サットン選手（旧姓ジャイルズ・イングランド）が来日いたしました。同選手はエディ・サットン選手の夫人であり、来日は二度目。

京都大会
1／16

巧者コーペン 近藤を降す

錢谷 スティーブンスにストレート負け

●京都大会（1・16）
○欧州選抜 3―2 全日本
▽男子シングルス
スティーブンス（イ）2（15―12 15―12）0 錢谷（ギリス）
▽男子ダブルス
スティーブンス 1（9―15 15―6 10―15）2 池田 栂野尾
サットン（イギリス）
▽女子シングルス
コーペン（デンマーク）2（11―8 11―2）0 近藤
▽女子ダブルス
ビューセコム リダー（オランダ） 0（16―17 4―15）2 徳田 高田
コーペン ボルグストロム（デンマーク） 2（17―15 0―15 15―12）1 湯木 近藤

京都大会での最大の呼び物は、近藤×コーペンの一戦である。いうまでもなく近藤は、さきのオールジャパンで〝女王〟湯木をストレートで降し、新時代の幕開けを告げた選手である。

そして、リーン・コーペンは、全英選手権で湯木に敗れて、二位にとどまったものの、世界選手権では、みごと優勝を遂げ、実力世界一の選手である。

以前来日したときは、まだまだ若く荒けずりな印象を与えたが、その後着実に技術を向上させ、精神的にもひと回りもふた回りも大きくなっての来日である。

近藤、エンジンかからず

ところが、ゲームのほうは、予想に反して一方的な内容に終り、ファンを失望させた。

時差ボケなどで、コーペンの不調ということは予想されたが、逆に近藤に全く精彩なく、どちらが遠来の選手かわからない状態であった。

第1ゲームは、コーペンの巧さだけが目立ち、近藤はそのジャンプ・スマッシュを打つチャンスすら与えられず、一方的に敗れ、第2ゲームへ期待が持ち越された。

そして、第2ゲーム中盤から近藤はようやくスマッシュを打ち始め、一時は8―7とリードし、このままファイナル・ゲームにもつれ込むかと思わせた。

ところが、コーペンは、それまで満を持していたかのように、きれいなラケットワークでネットの勝負に持ち込んだ。

そして8オールからショートサービスをくり出すと、近藤は2本連続でレシーブをネットにひっかけ、あっさりマッチポイントを許し、最後はコーペンが近藤のバックハンド前へ、逆カットを落とし、ゲームセット。

緩急自在のコーペン

この一戦をみる限りでは、近藤のプレーうんぬんよりも、コーペンの試合慣れした巧さと、鋭い情勢判断だけが残った。

ややウェスタン気味に持つラケットから、ドロップショットが面白いようにコーナーを突き、バックを攻められると、シャトルを低く落とし、サイドハンドから思い切って近藤の後ろへ返球するかと思えば、クロスにドロップショットを落とすなど、緩急自在といった感じだった。

そして、ほとんどスマッシュを打つこともなく、やや汗ばむ程度でゲームを終了してしまった。

一方近藤は、ウォームアップ不足を思わせるように、動きが固く、フットワークもきわめて悪い状態で、得意のジャンプ・スマッシュも不発に終わった。

オールジャパン後の調整に問題があったのか、あるいはコンディションを崩したのか、残念な試合内容であったが、どんな大会でも、そのコンディションなりに、好プレーを展開するよう努力してほしい。

今後、国際試合の経験もふえてくると思われるが、この一戦は〝良いクスリ〟になったはずであるし、またそうしなければ意味のない敗戦となってしまうわけである。

東京大会での奮起を期待したい。

徳田・高田レシーブ勝ち

日本のファンにもすっかりおなじみになったヨーケ・バン・ビューセコムの登場する女子ダブルスにも多くの期待がよせられたが、こちらもやや盛上りに欠ける内容となった。

第1ゲームは、ビューセコム・リダーのペアに調子が出ず、一方的に徳田・高田が押しまくった。

そして、第2ゲームになるとようやくオランダペアに調子が出はじめ、リーチの長さと、高い打点で日本ペアを苦しめた。

それに対し、徳田が後、高田が前の陣型に持ち込もうと、日本ペアはけんめいのレシーブを展開。

この日本ペアのしつこいレシーブに冷静さを乱されたオランダペアは、長いラリーが続くとミスを出すようになり、セッティングの末、徳田・高田に凱歌が上がった。

第7回国際バドミントン競技大会

岐阜大会
1／21

銭谷 サットンの攻撃にあわてず

不調・湯木はコーペンに完敗

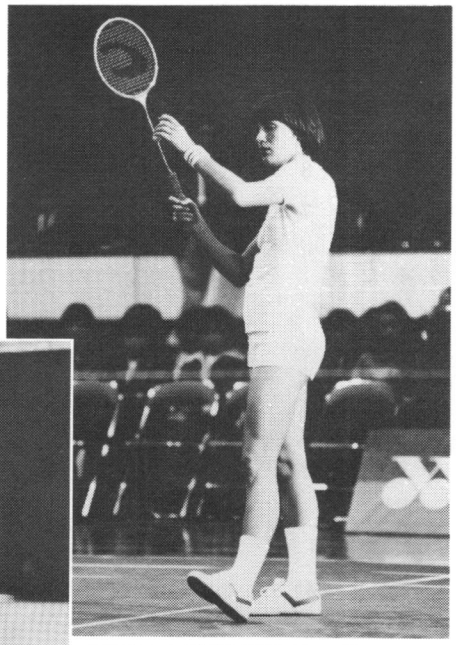
●岐阜大会（1・21）
欧州選抜 2―3 全日本
▽男子シングルス
サットン（イギリス） 0（10―15 8―15） 2 銭谷
▽女子シングルス
コーペン（デンマーク） 2（11―1 11―1） 0 湯木
▽男子ダブルス
スティーブンス サットン（イギリス） 2（15―6 15―9） 0 中井 銭谷
▽女子ダブルス
コーペン ボルグス（デンマーク） 0（9―15 6―15） 2 高田 徳田
コムビューセ リダー（オランダ） 0（7―15 4―15） 2 近藤 湯木

まず銭谷が、サットンの強烈なバック・サイドへのクロスマッシュに手を焼いたものの、安定したストロークでこれを一蹴。

今大会の呼びもの、コーペン対湯木の一戦を迎えたが、湯木は体調を崩して練習不足のため、圧倒的なスコアでコーペンに軍配が上がった。

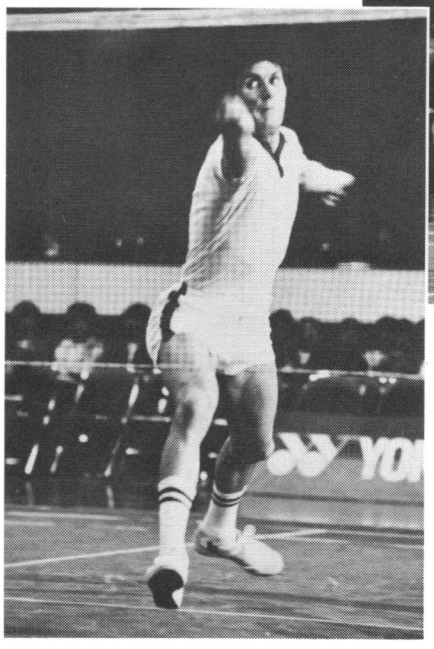
コーペンは〝現世界チャンピオン〟らしく、正確な深いクリーアーを主体に、左右からのクロスカットを鋭角的に打ち込み、その〝大物〟の片鱗をのぞかせた。

ダブルスは、男子は日本ペアに、女子は外国ペアに今一つ調子が出ず、盛り上がりを欠く試合となった。



▲安定した試合運びのコーペン

▼サットンは銭谷に完敗



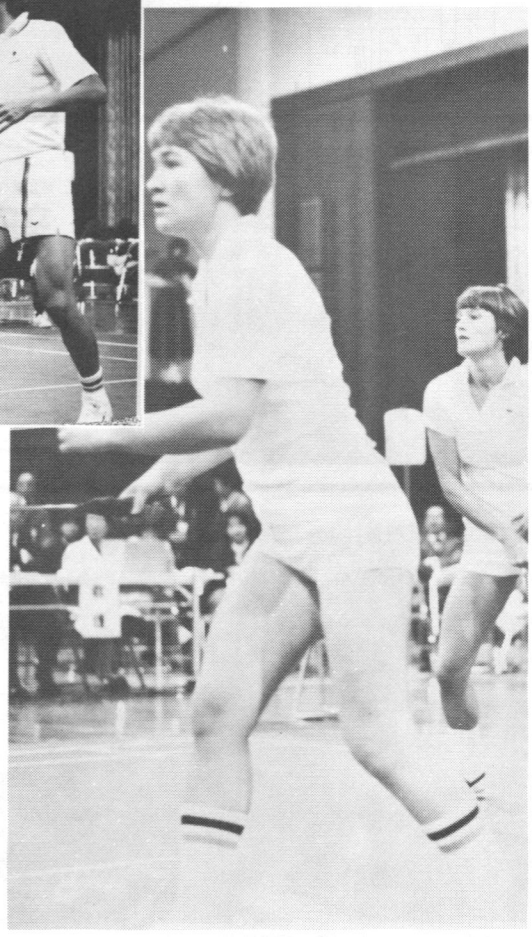
▼不本意なゲーム展開の　ビューセコム・リダー組





▲当たりの出なかった　銭谷・中井組

▼ダブルスも好調のコーペン・ボルグストロム組





▲レセプションでコーラス

ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——！

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

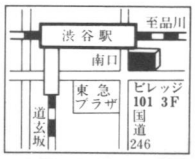
日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

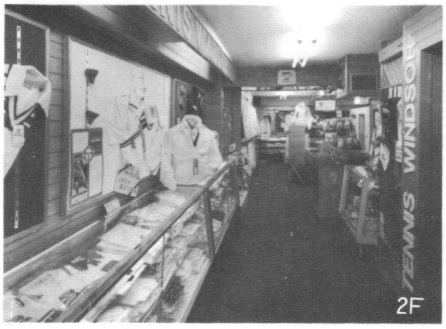
渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251~2 〒150

●営業時間／午前10時~午後7時30分





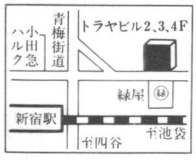


毎月曜日定休・祝祭日を除く

新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階綾屋前) TEL 03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時~午後7時







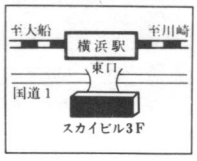
年中無休

横浜店

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口

(スカイビル3階) TEL 045-461-1785 〒220

●●●営業時間／午前10時~午後8時



WINDSOR RACKET SHOP

第7回国際バドミントン競技大会

◆1・21＝熊本

デルフス余裕の完勝

対抗戦は3勝2敗でヨーロッパ

飯野・土田組 土つかず

◆1・22＝福岡

●熊本大会（1・21）

○欧州選抜 3―2 全日本

▽男子シングルス

デルフス（デンマーク） 2（15―8 15―12）0 飯野

▽女子シングルス

ペリー（イギリス） 2（12―11 10―12 11―4）1 植野

▽男子ダブルス

デルフス スコブガード（デンマーク） 0（12―15 11―15）2 飯野 土田

キールス トロム フローマン（スウェーデン） 2（15―10 15―6 12―15）1 池田 栂野尾

▽女子ダブルス

ペリー サットン（イギリス） 0（9―15 11―15）2 谷 秋本幸

●福岡大会（1・22）

欧州選抜 2―3 全日本

▽男子シングルス

デルフス（デンマーク） 2（15―11 18―15）0 土田

▽女子シングルス

サットン（イギリス） 0（6―11 3―11）2 植野

▽男子ダブルス

デルフス スコブガード（デンマーク） 2（15―9 15―7）0 池田 栂野尾

キールス トロム フローマン（スウェーデン） 0（14―18 4―15）2 飯野 土田

▽女子ダブルス

ペリー サットン（イギリス） 1（11―15 6―15 15―10）2 谷 秋本幸

1月22日の福岡大会をもって地方における対抗戦は終了し、1月28日・29日の東京大会を残すのみとなった。

この五つの地方大会を振り返ると、日本女子主力選手の不振が目立った。

湯木はシングルスでコーペンに1―11、1―11の完敗。ダブルスも近藤と組んで、1勝1敗。

近藤はやはり、コーペンに完敗。

徳田・高田組は、好調を続け、2戦2勝であった。

また、植野もシングルスで3戦し、ペリーと1勝1敗、サットンにはストレート勝ちをかざった。しかし、二人とも昨年のイングランド・ランキング外の選手であることを考えると、あまり喜んでもいられない。

一方、男子は、全日本チャンピオンの銭谷が1勝1敗、同2位の土田が2戦2敗、ベスト8の飯野が1敗。

ダブルスでは、全日本チャンピオンの飯野・土田が3戦全勝と、すっかり力をつけ、同2位の池田・栂野尾組が1勝1敗となった。

銭谷の対戦した相手は、スティーブンスがイングランド2位の選手であるが、サットンはランク外の選手。

土田、飯野はデルフスと対戦し、世界一とプレーをすることができたのは、今後にとって大きな収穫となったはずである。

その反面、銭谷が一度もデルフスと対戦できなかったのは、非常に惜しいことである。日程等の調整もあったが、東京大会でもうまく対戦できるかどうか不明であるし、少なくとも一度はやっておきたかったであろう。

カワサキ専属プロ誕生

相沢マチ子・プロ



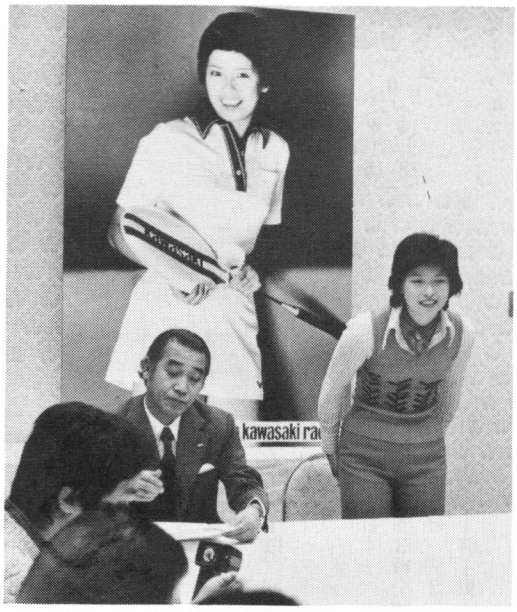
あの相沢マチ子が、わが「河崎ラケット」から専属プロとしてデビューいたします。

かつて全日本総合ダブルスに5回優勝、全英選手権ダブルスに3回優勝してバドミントン界に君臨し、また美人プレーヤーの誉れも高く、アイドルとして人気のあった相沢マチ子。

現役引退後は、日本のバドミントンのプロ第1号として注目を浴びてきましたが、昨秋、美しい花嫁衣裳に包まれて結婚。プロ活動も一時沈黙を守っていました。

しかし、彼女のバドミントンに対する情熱は、少しも衰えることを知らず、再び「河崎ラケット」専属プロとしてスタートを切ることになりました。

彼女の豊富な経験と、旺盛なバドミントンへの愛情を生かし、幅広い技術指導、そしてトータル・アドバイザーとして、皆さんのお役に立つことができればと、切望しています。ここにバドミントン界誌上をお借りして、読者の皆さん、バドミントン・ファンの皆さんへ「河崎ラケット専属プロ・相沢マチ子〝誕生〟を誌上発表いたします。



記者団に抱負を語る相沢マチ子プロ

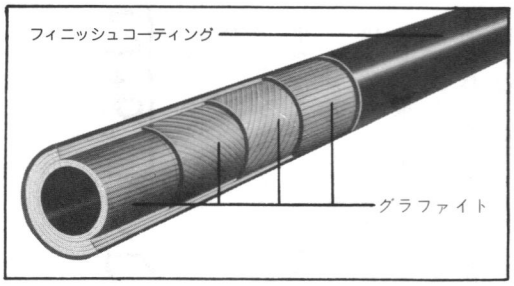


カワサキラケット

河崎ラケット工業株式会社

GRAPHITE RACKET

画期的なものを生むためには冒険が必要です。B−82もこの例にもれません。グラファイトファイバー繊維は異方性にとむ性質で、配列しだいでは性能が大きく変わります。カワサキはこの難問を独得のクロス加工で解消。方向の異なるグラファイト繊維を４層に重ね合わせ、素材のもつ特性を最大限に引き出しました。これこそ世界が待ち望んでいた理想のラケット。スチールパイプにカーボンをまきつけただけというラケットとは威力が違います。この完成度の高さはカワサキならではのもの。



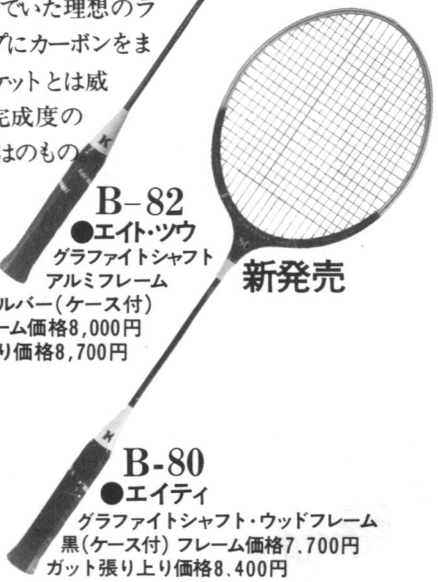


新発売

B−82
●エイト・ツウ
グラファイトシャフト
アルミフレーム
シルバー（ケース付）
フレーム価格8,000円
ガット張り上り価格8,700円

新発売

世界初の100%グラファイトシャフト



B-80
●エイティ
グラファイトシャフト・ウッドフレーム
黒（ケース付）フレーム価格7,700円
ガット張り上り価格8,400円

新・ガッツ小島の体当り実戦教室

⑩小島一平

1ヵ月間のインド遠征

●上々の成果も、象にはビックリ

東南アジアへの遠征の中で、非常に強く印象に残っているのは、秋山真男氏と二人で、正月2日早々インドへ出発し、約1ヶ月の間に4つのトーナメントに参加したときのことである。1つの大会が、4日間の日程だから、2日に1回は試合をしていた計算になる。

まず最初の目的である「ネール記念世界招待選手権大会」がニューデリーで開催。強敵は地元インドの選手、イギリス、ニュージーランドといったところで、レベル的にはそれほど高い試合ではなかった。しかし、その頃はまだまだ、日本では勝っても海外へ出ると、無名の選手に負けたりしていたのだから、なんとしても優勝せねば、と思っていた。

インドは娯楽が少ないので、体育館は常に超満員。秋山氏ともども苦戦を続けながらなんとか決勝へ進出。異国での2度目の対戦となったわけである。書き加えるならば、1回目はトマス・カップ豪亜ゾーン予選でニュージーランドへ遠征した際、折りしもニュージーランド国内選手権大会に参加することができ、その時に対戦して秋山氏が優勝したのである。2人ともその頃は、しのぎを削った間柄だったので、2人だけの遠征にもかかわらず闘志むき出しで、それは激烈な戦いだった。

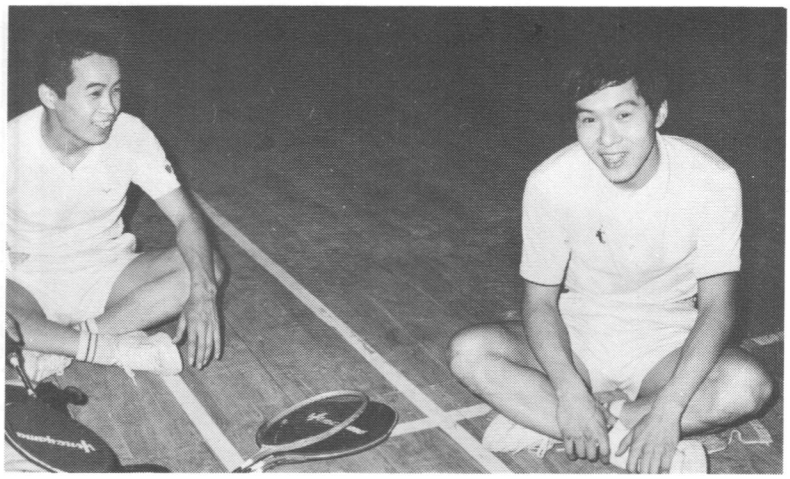
デリーでは辛うじて、小生がファイナルゲームの末優勝。その夜は秋山氏から祝福の言葉と食事をご馳走になり、楽しい一夜であった。

もちろん、ダブルスにも優勝し、喜びも二重だったことはいうまでもない。

インドでまず驚いたことは、街へ出ると子供が集ってきて金銭をねだることで、われわれも一策を案じ、とにかくラフな格好というか、ジーパンにポロシャツといういでたちに切り替えたところ、それ以来あまり寄ってこなくなった。

先輩の方から、インドの食事には弱ったと聞きおよび、小生は初めて外国へ、インスタントの味噌汁と小さな鍋、米、それに固形燃料を持参し、1週間に1度のペースでご飯を炊き、おかずはそれこそ味噌汁だけの粗食を摂ったほどだった。しかし今でも、その時の美味しかったことは、はっきり脳裡に焼きついている。日本でも有名なインドカレーは想像以上に辛くて、すごいものだが、小生は辛いものには強く、それほど抵抗は感じなかった。それにしてもインド人が、右手の第1関節しか汚さず、きれいにカレーを食べるのにはびっくりしたものである。

さて次の開催地へ到着。体調の調整のためホテルの広大な庭（といっても普通考える庭とは大違いで、森林公園といった具合い）へランニングをしに出かけた。奥深くまで足を踏み入れると、うっそうとした感じで木々が生い茂り、少々うす気味悪くなって、走るの



1ヵ月間のインド遠征で好成績をおさめた秋山氏(左)と筆者

を中止。体操をしていると、何かとてつもなく大きな物体が動いているのに気がつき、よく目を凝らして一点を注視してみると、なんと巨大な象ではないか。いや、ビックリしたなんてもんじゃない。まさかこんな所にいるなどと想像もしていないし、考えてもみなかったことだから、その時のダッシュの速かったこと。ホテルへ戻っても鼓動の大きさはおさまらず、口ではとても言い表わせないほどだった。

2回目の大会も、小生がシングルスに優勝。秋山氏が2位。ダブルスも優勝して完全に自信を持つことができた。

しかし、その後小生は虫歯。それも一番奥の下とあって痛みは増すばかり。歯医者にかかるのも恐ろしく、薬局で鎮痛剤を求め、これを飲みながら大会に参加するも、2日目ついにガットを張る目打ちで、半分は生きている歯をもぎ取ってしまった。その痛さといったらひどいものだったが、早く楽になりたい一心で……。出血はなかなか止まらなかったが、痛みはウソのように消え、翌朝からは快調。

3度目は秋山氏がシングルスに優勝、ダブルスも優勝と、残すは最終戦だけとなった。

この頃になると、インドの地元選手をはじめ、外国選手すべてが完全優勝を阻止すべく目の色が変わり、俄然、挑戦的になりはじめた。われわれはもう自信満々、受けて立ってやろうと、大きな態度をしていた。

いよいよ試合開始、順調に準決勝まで進んだのだが、秋山氏が不覚をとり、敗退。どうしても小生が頑張らねばならぬ状態に追い込まれた。しかし、なんとかこれを切り抜けて優勝することができ、われわれは4戦全勝と好結果を得ることができた。

しかし、ダブルスは決勝で敗れ、完全優勝はならなかった。

それでも悪条件のもと、2人で大活躍できたことは満足のゆくものであったし、よくまあ片言の英語で通じたものだと、われながら感心する次第であった。

また外国では、必ず試合の後にレセプションがあり、そこでスピーチをさせられるのだが、挨拶が上手にできないため簡単にお礼を述べ、下手な歌で勘弁してもらったことも度度であった。



大会へ参加した地元インド，そして外国選手とともに

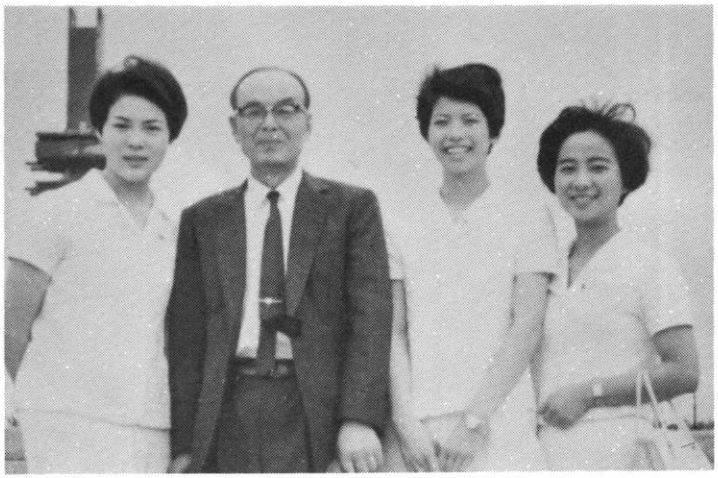
とにかく、遠征では勝つことしか頭になく、常にバドミントンを主体にしてスケジュールをこなしてきた。疲れていると思った場合は、観光などもキャンセルし、ホテルのベッドで横になっていることもしばしばであった。

（次号へつづく）

エツコのバドミントンライフ

⑧栂野尾悦子

オールジャパン初優勝



当時のチームメイトと学長さんを囲んで

学生選手権での完敗は、全日本総合選手権大会を一ヵ月後に控えた私達に、痛いムチとなってくれました。私にとっては、初出場なだけに、毎日のランニング、練習後のサーキットトレーニング、そして、単調な基本練習にもいっそう気合いが入ります。阿部一佳先生の叱咤とノックのシャトルが、これでもか、これでもかと尽きることなく飛び込んできます。

当時、シングルス・チャンピオンは高木さん（現中山夫人）、ダブルスは高木・天野組です。そのチャンピオンにシングルス一回戦で挑戦するのが私。高木さんは、決して自分からミスをしません。

それは、毎日の練習の積み重ねで培われた粘り強い体力と、精神力から繰り出される正確なコントロール以外にないのです。強力なエースショットを武器にする者より、どういうタイプのプレーヤーに対しても、最後の一瞬までもくずれないコントロールを持っていることこそ、何倍もの威力があるのではないでしょうか。

〝ミスをしない〟これこそ、チャンピオンへの大原則の一つといえるでしょう。

私の最大の欠点はプレーの荒さからくる、その〝ミス〟にあったのです。馬力のあるスマッシュだけを頼りにしていては、とうていかないません。『高木さんより先に、絶対ミスをしない』。そのことを常に頭に置いて練習したのです。思い切ってやろうとすればミスが続出し、ミスをこわがっていてはプレーが消極的になってしまう。まだ自分でプレーと気持ちのかね合いをコントロールするには、あらゆる面において未熟だったのです。

ダブルスでは、一回戦を勝てるかどうかもわからない実力なのに、阿部先生は、決勝で高木・天野組と対戦することしか脳裏になかったようです。そのダブルス一つにしぼった作戦が立てられ、相手を想定して徹底した攻撃練習をしたのです。守りの固いダブルスを破るには、それ以上のへこたれない破壊力が要求されます。

まだまだ、攻めは強いが、守りにまわるともろい私達は、いち早く攻撃のチャンスをつかまなければ不利なのです。

いよいよ、昭和43年度、オールジャパンの幕あけです。

墨田川のほとりにある台東体育館には、全国から腕を振るうために集まった強豪で緊張した空気がみなぎっています。

高木さんとの試合時間が刻々と迫ってきます。根負けせず、最後まで粘れるだけ粘ってみようと決心しコートに入ったのです。

一ゲーム目、8オールぐらいまでは、どうにかついていけたものの、そこで息切れがし、競り合いの中で、さあ、これからどうしようと思った瞬間、もう高木さんには、私の迷いがすっかり読み取れていたのでしょう。そういつまでもつきあってはくれません。相手のリズムの狂いやスキを見抜いた途端、一気に王手をかけて勝負を決めてしまう鋭さは、さすがにこわっぱには歯が立ちませんでした。二ゲーム目はなすすべもなく軽くあしらわれてしまいました。



まだまだ茶目ッ気が抜けきれません

問題のダブルスは、いくつもの難関を突破し、ようやく念願の決勝にまでこぎつけることができました。作戦は一つ。上がったら打ちこむ。そうです、ネットより少しでも浮いてくるシャトルはすべて、相手コートめがけてたたくこと。高木・天野組に、型や技で立ち向かうには、まだまだ不完全で未熟な私達に、残されているのは、力で押し通すしかないのです。この日まで、それだけの練習をしてきたのです。

まさにその通りのゲーム展開になりました。高木・天野組の壁は厚く、覚悟はしていたもののビクともしない感じでした。打っても打っても返ってきます。それでもあきらめず、スマッシュ、スマッシュ、間に合わない時は飛びついて、伸び上がって……。18歳の私達は連続アタックなど少しも苦になりません。むしろ、虚をつかれて、ヒョイと返球される方が、タイミングをくずされてとまどってしまうのです。点数が競り合ううちに、しだいに返球の威力が弱まってくるのがわかってきました。強固な〝とりで〟が少しずつくずれかけてきたのです。ここで気を抜いたらおしまい。さらに拍車をかけて、アタック、アタック。何本、何十本スマッシュを打ったことでしょう。とうとうやりました!!

〝全日本総合選手権ダブルス初優勝〟

夢ではなかったのです。そう、毎日のように言われてきたことが、夢だけで終わらなかったのです。


オールジャパンに上京して浅草の観音様で

今、思い返してみても、それは、先生の魔力としか思えません。なぜなら、世界の、いえ、日本のバドミントンのことさえ何も知らない私を相沢さんと組ませたその時点から、『日本一、世界一のペアになるんだ』と、毎日、口ぐせのように言われ続けてきたのです。はるか遠い人ごとのように信じられなかった私に、いつしか、日本一、世界一のとほうもない目標が、心の奥底にしっかりと根をおろしはじめたのを覚えています。そうです、ばくぜんとしたあこがれが、はっきり、現実の目標となったことで、私の青春すべてが、バドミントンにのめり込んでいったのです。

この日、ダブルスを組んで8ヵ月余り、全日本のタイトルを手にした瞬間から、新たに、日本一、世界一への挑戦の第一歩が踏み出されたのです。

（つづく）

われらのクラブ ⑨

“宴会”は日本一

台東区 プーナ・クラブ

われわれのクラブが発足したのは……と定石通り書き始めても、あまり面白味がないので、まずはとっておきの話からいたしましょう。

わが「プーナ」クラブの特徴は、練習でも試合でもなければ、そうです、その盛大かつ豪華な〝宴会〟にあるのです。でもやはり人の子ですから人目も体裁も気になり〝宴会〟とは呼びません。新年会であったり、忘年会であったり、はたまた〝反省会〟と名付けては飲めや歌えのドンチャン騒ぎを敢行するのです。みんな江戸っ子、それもちゃきちゃきの下町っ子ですから、中途半ぱは大嫌い。やるならとことんやるというわけで、プレー同様本格的な本格派。

スナックを一軒貸切りにして、わがまま放題のし放題。専属バンドに専属歌手まで呼び寄せて大名気どり。のど自慢たちが我こそはとばかりにのどを競い合います。

興に乗って踊り出す者、日頃の飢餓状態から抜け出そうと必死になって食べる者。それぞれが思うままに、練習のうっぷんを、試合のうっぷんを晴らします。いつもは、いるかいないかわからない者も、この時ばかりは目の色が違います。このエネルギーを練習へ向けたらとは思うのですが、それはそれ、これはこれ。むずかしいことはすっかり忘れて、勝手気ままな楽しい夜が延々と続きます。

こう書いてみますと、下品なオッサンだけのクラブのようですが、さにあらず約半数はオバサンたちが占めていて、約50人の大世帯。

老若男女を問わないところがミソなんですが、近頃は若い人が少なく、今一つ迫力に欠ける気がしています。

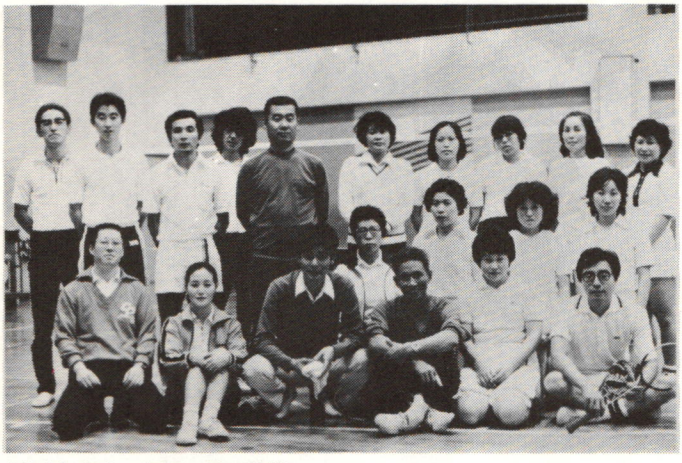
宴会の話が先になって、いったいバドミントンをしているのか、なんて思われちゃ癪ですから、そろそろそちらの話もしておきましょう。

クラブの発足は、千束小学校のPTAからとお定まりのコース。台東区の体育指導員が中心になって活動が始まりました。

それにこの「プーナ」という名が素晴らしいでしょう。バドミントン発生の地、インドのプーナ地方からとったものですが、常に初心にかえるという意味でも、そして誰にでも共鳴するような響きがあり、自画自賛しています。

週1回、日曜日の練習日はゲーム練習オンリー。基本をしっかり打ちたい者は、早く来てやるし、三々五々集って、決して束縛はしません。

練習中「何をやっているんだ、早く帰って寝ろ」とか口汚なく罵しり合うのは日常茶飯事。〝江戸っ子は五月の鯉の吹き流し、口先だけで腸はなし〟とか申しまして、誰も気にする者もいません。練習が終われば楽しい宴会が待っているのです。



〝宴会〟好きの江戸っ子が勢揃い

チャンスが来たぞ。

世界の一流プレイヤーが
使っているヨネックスの
インターナショナル製品を
抽選で、10,000名の方に
プレゼント。

●下記のヨネックス製品をおもとめください。

ラケット

B1000　B2000　B3000　B4000　B5000
B6000　B6500　B7000　B8000　B8100
B8300　B9000　B9100　B9300

ウエア

日本バドミントン協会推せんのすべてのシャツ、ショートパンツ、ワンピース、スカート、キュロット、セーター、ベスト。そのほかウォームアップ、トレーナー、パーカー、ウインドブレーカー。

バッグ

No.354　No.355　No.350　No.351　No.352（A・Bのみ）
No.356　No.357　No.359　以上該当商品

●抽選で10,000名の方に下のものどれか1点をプレゼント。

1.バッグA　2.バッグB　3.ポット　4.ラケット
5.ウォームアップ　6.タオル　7.ラケットケース
8.ガット

以上の商品はイギリス、オランダ、スエーデン、デンマークなどの国々で人気の高いヨネックスのインターナショナル製品です。

●ご応募の方法

おもとめになったヨネックス製品（該当商品）についている応募ハガキに、おもとめの製品の価格シールをお貼りになってお送りください。

●実施期間

昭和53年2月1日～5月31日（応募締切）

●当選発表

昭和53年6月15日
雑誌〝バドミントン界〟誌上と各参加店の店頭なお、プレゼント商品はおもとめになったお店を通してお渡しいたします。



③バドミントン・ポット（500個）
シャトルコックスタイルのシャレたポット



②バッグB（500点）
ヨーロッパ一流プレイヤーのサイン入り



①バッグA（100点）
ラケット、ウェアなどが専用に納まる特製バッグ
（※写真のうち、ラケット、ウェア、アクセサリーなどは含みません。）



⑤ウォームアップ
（100セット）
断然人気のNo.118型特製



④ラケット
B-9100（300本）
サイン入り



⑥タオル
（500本）
特大のスペシャルタオルです



⑦ラケットケース
（3,000枚）
特製サイン入り



⑧ガット（5,000張）
ヨネックス高級ガット

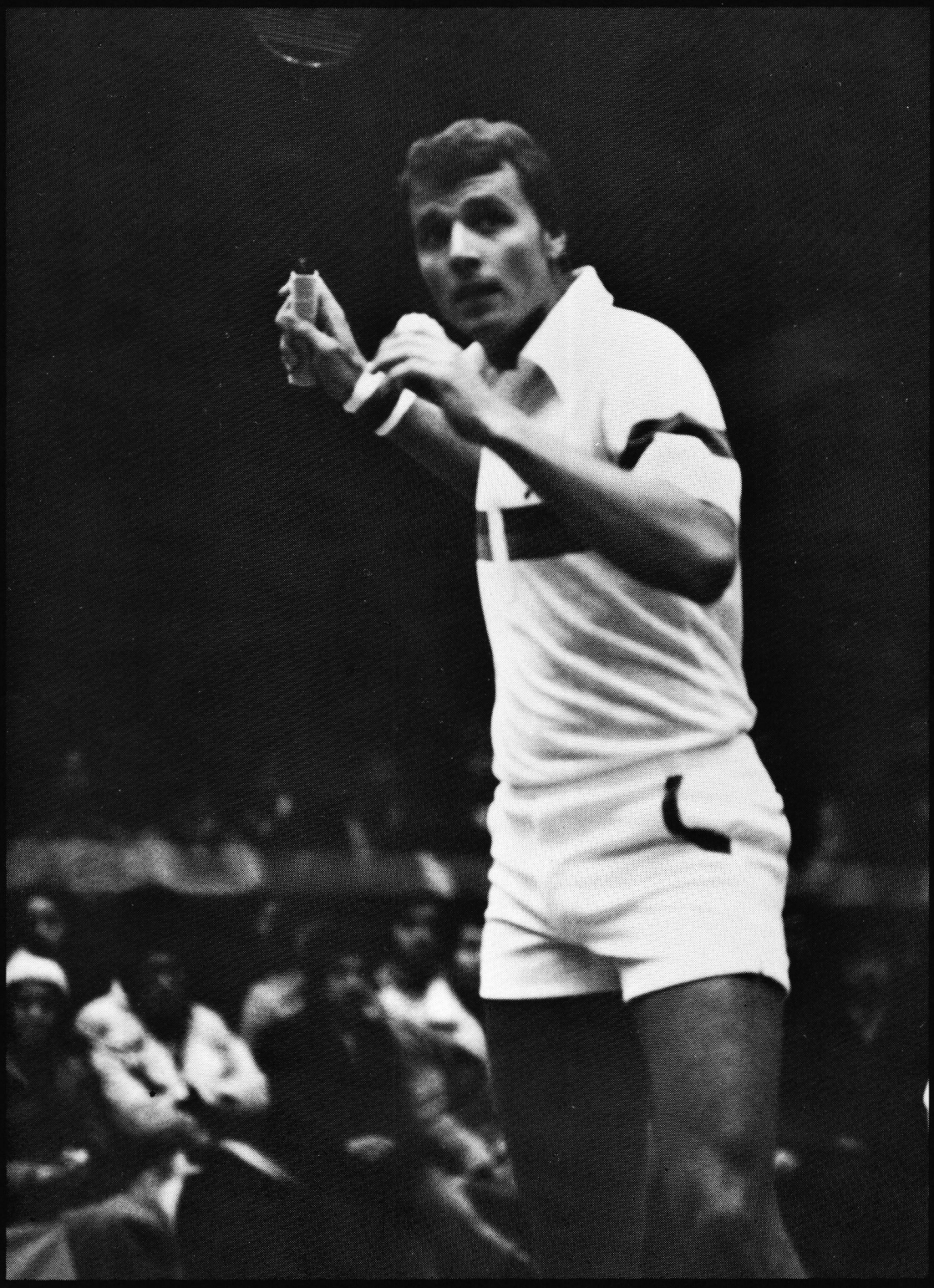
YONEX WORLD BADMINTON FAIR

ヨネックス ワールド バドミントン フェア

10,000名さまプレゼント!

YONEX®

場内を魅了



フレミング・デルフス

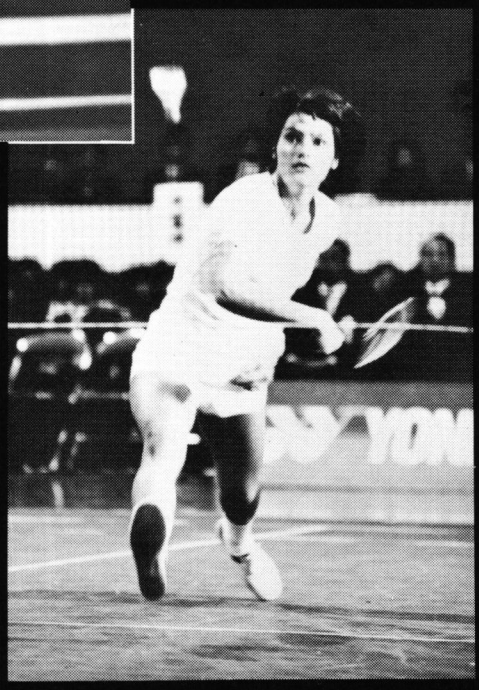
"世界一"のプレー

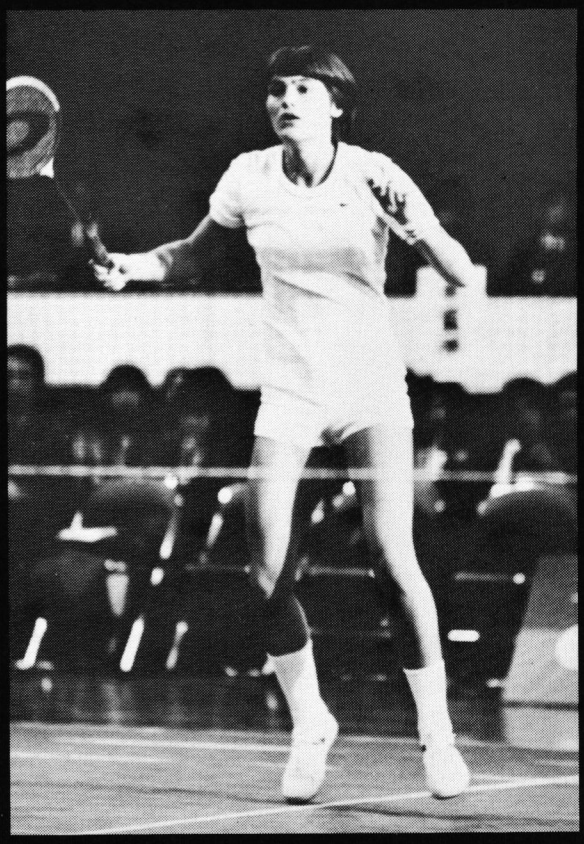


リーン・コーペン

緩急自在のコーペン







carlton

New Badminton Racket



●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント



威力壮烈!

20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

metro

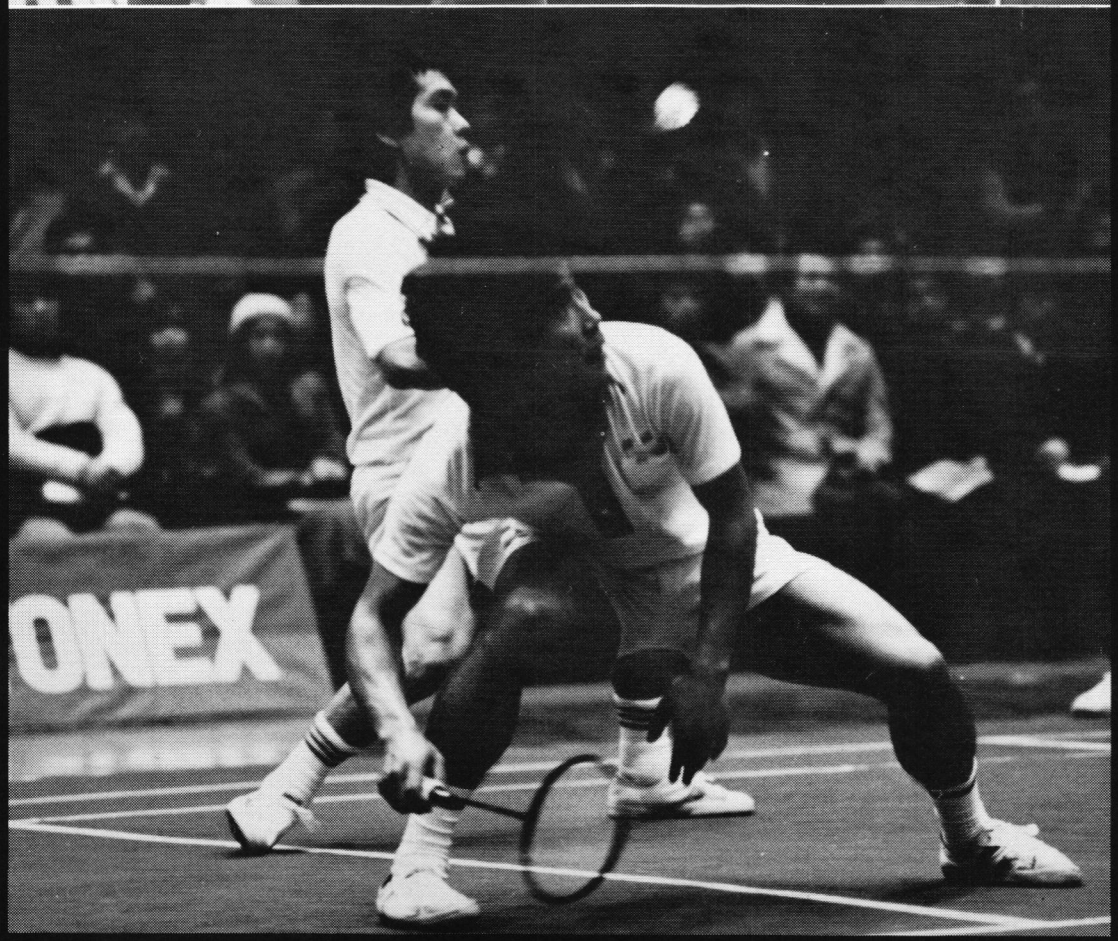
総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)



伝統のダブルスをみせたペリー・サットン組

〝4メートル・ダブルス〟デルフス・スコブガード VS 〝ガッツ〟小島・鈴木





大型ヨーロッパチーム

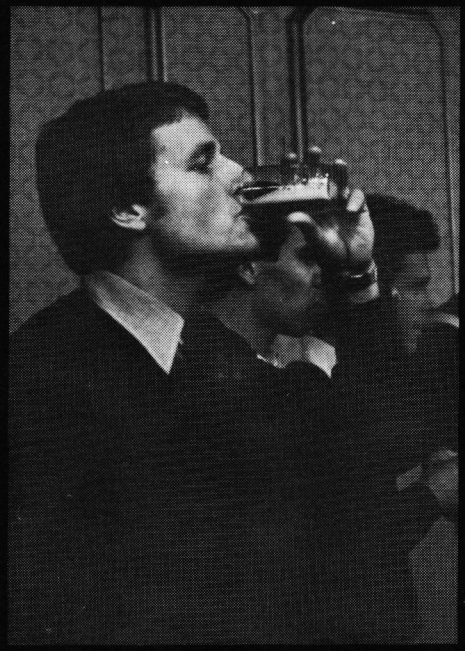
新潟大会開会式（左からペリー、サットン、デルフス、スコブガード、フローマン、キールストロム）



くらべ

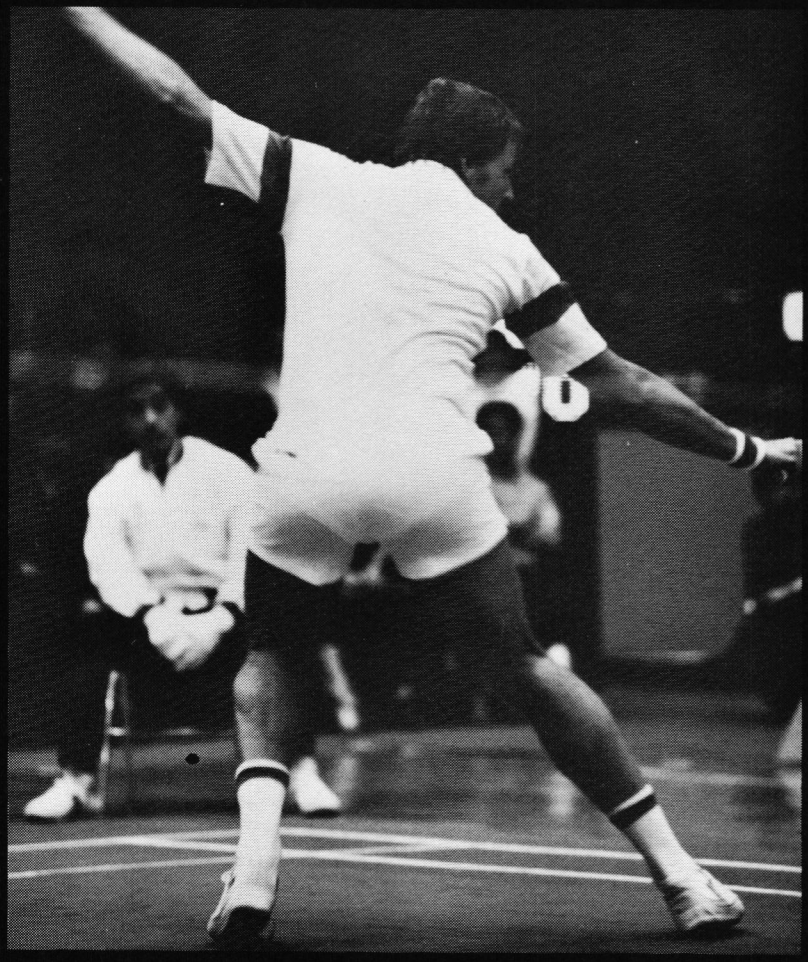


リダー・ビューセコム



飲みっぷりも〝世界一〟

ステップを踏むような軽快なフットワークのデルフス

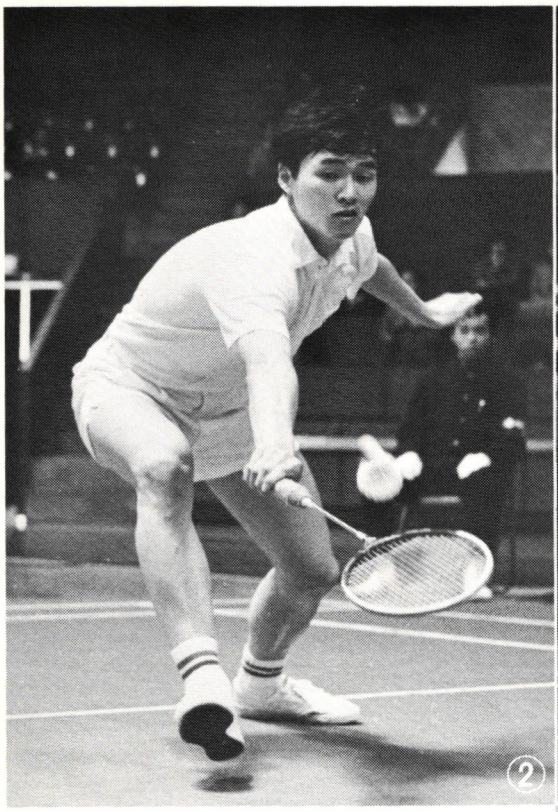


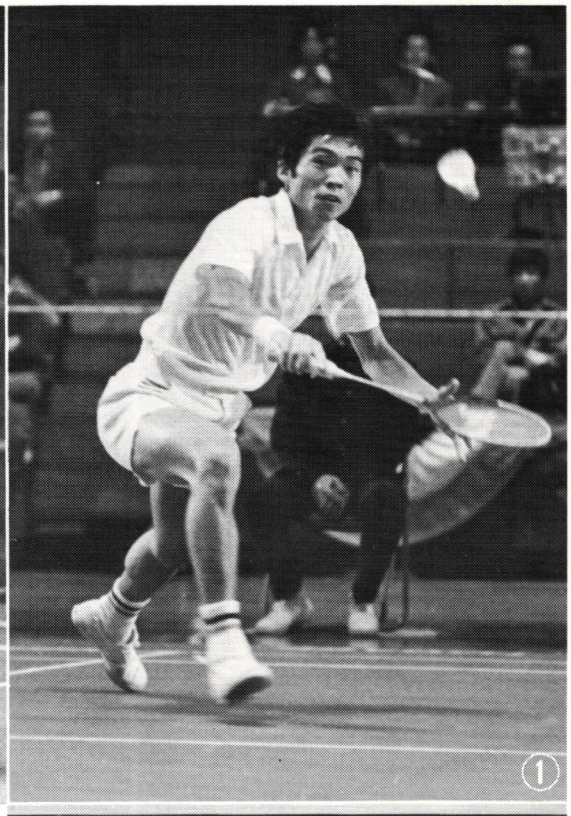
東西食べ



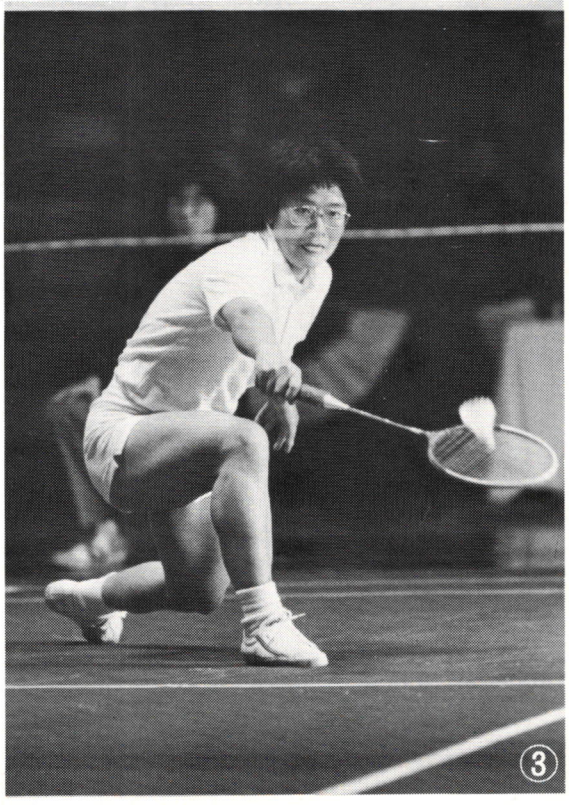
徳田・近藤

みる実戦テクニック





ネット際のレシーブ

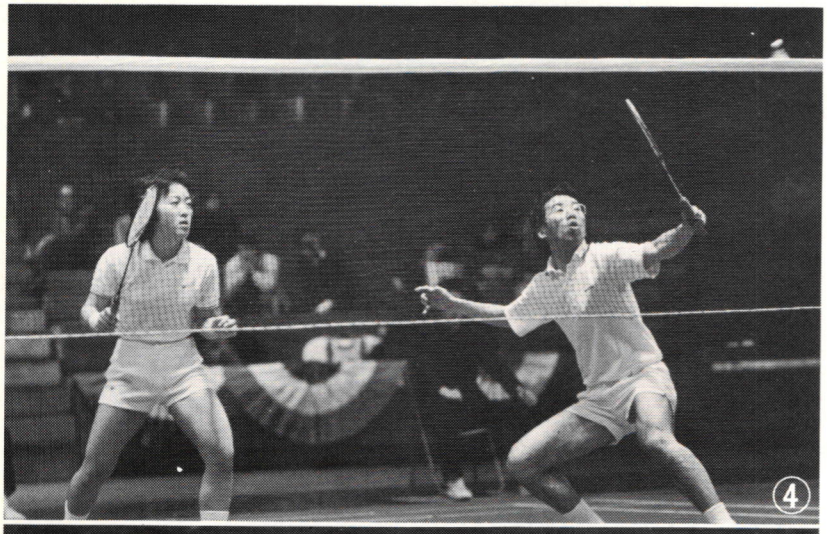


①シングルスを制した銭谷欽治選手（河崎ラケット）。ネット前へ落とされたシャトルに向ってダッシュ。足運びも安定しており、目もシャトルをしっかりととらえている。

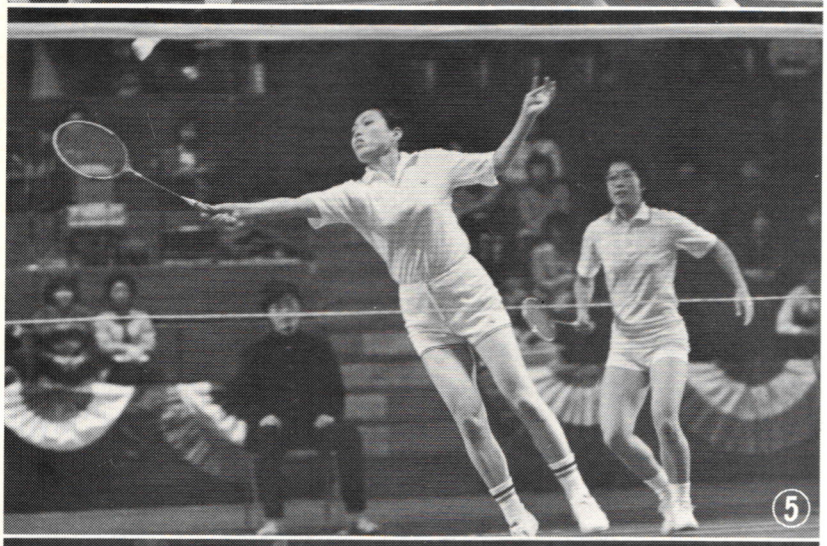
②シングルス3位の谷口寛選手（トヨタ自工）。バックサイドを突かれたシャトルを、ネットにリターンするところ。左手でバランスをとっているが、打点がやや低い。

③湯木選手を倒し、日本一の座についた近藤小織選手（日本女子体育大）。男まさりのジャンピングスマッシュにそのプレーは象徴されるが、ネットプレーもなかなか進歩した。もっと打点が高ければ……。

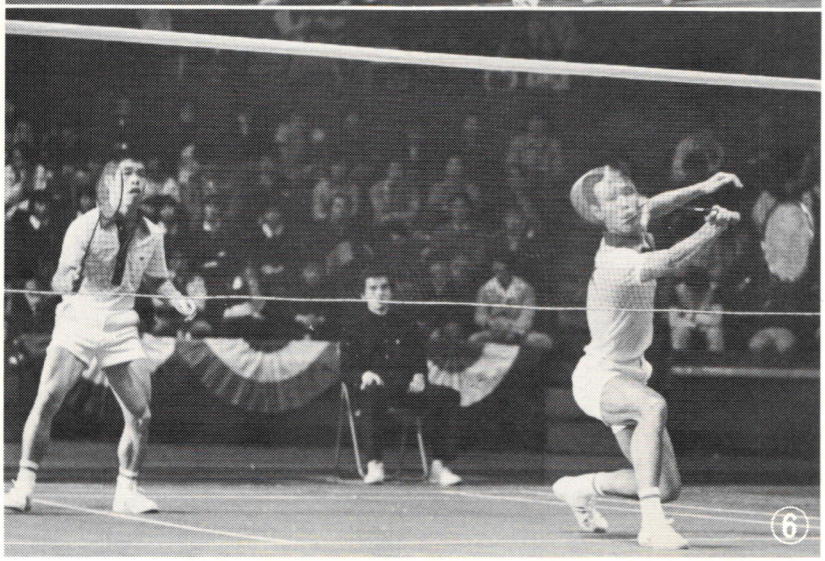
ヘアピン・ショット①



④混合ダブルス初優勝の日下・牛田組(百十四銀行)。日下がサービス・レシーブに突っ込み、ヘアピンを落としたのち、後衛に戻ろうとしているところ。打点の高さが理想的であるし、パートナーの牛田がラケットを上げているのがいい。



⑤ダブルス2位の湯木・近藤組(河崎ラケット・日本女子体育大)。湯木がジャンプしながらヘアピンを打ったところ。しかもシャトルをクロス気味に返そうというところであるが、やや守勢の感がある。



⑥ダブルス2位の池田・栂野尾組(電電東京・ヨネックススポーツ)。栂野尾独特の引きつけて打つフェイント。

from carlton England

1,000,000ゴース

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個
¥280

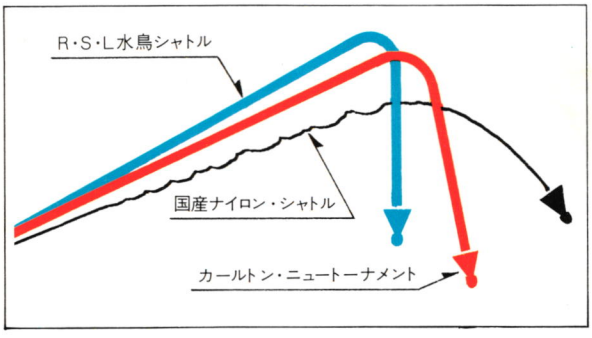


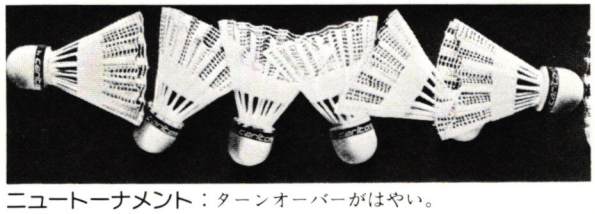


インターナショナル

1個
¥220

だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。





ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

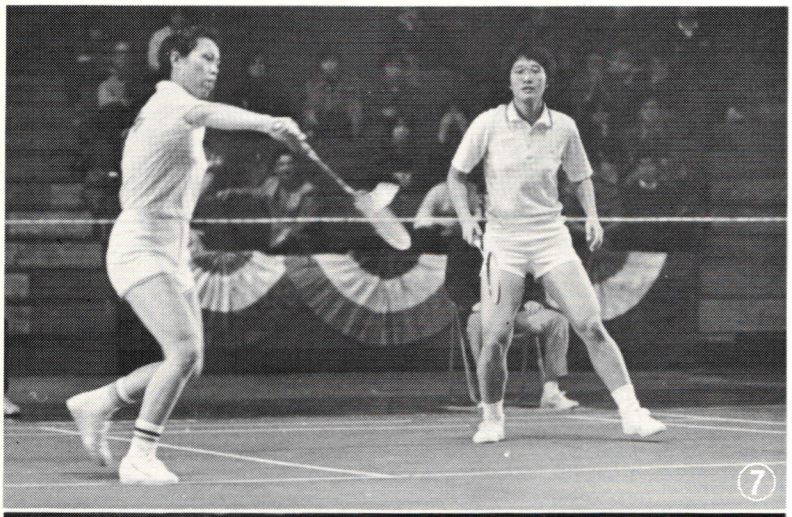
左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

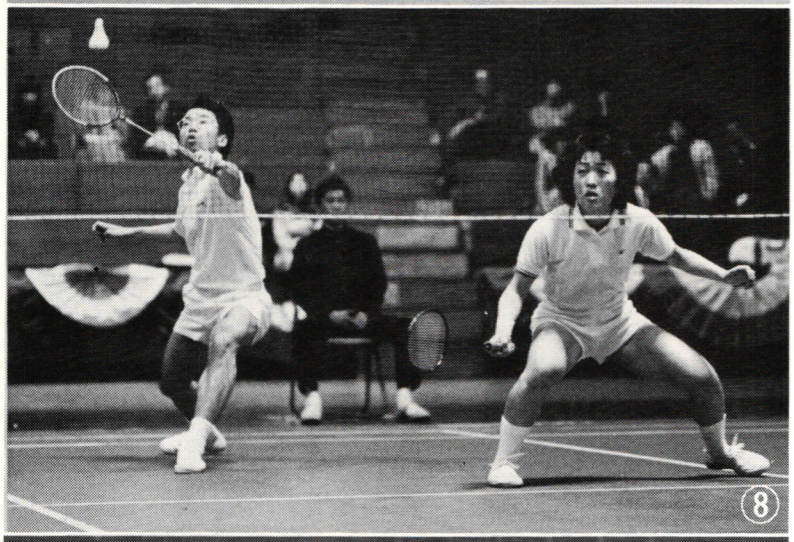
しかも、国産品とは飛びが違います。

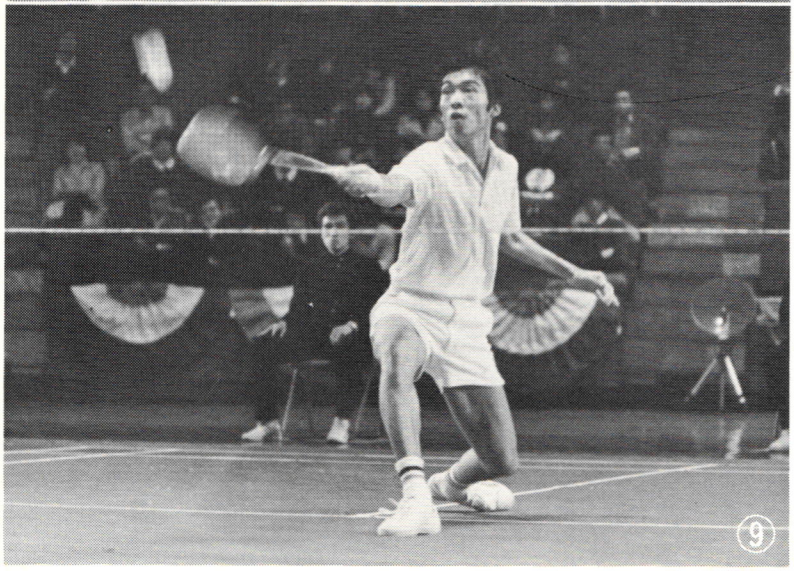
総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

だから
シャトルコックならカールトン

ヘアピン・ショット②


⑦


⑧

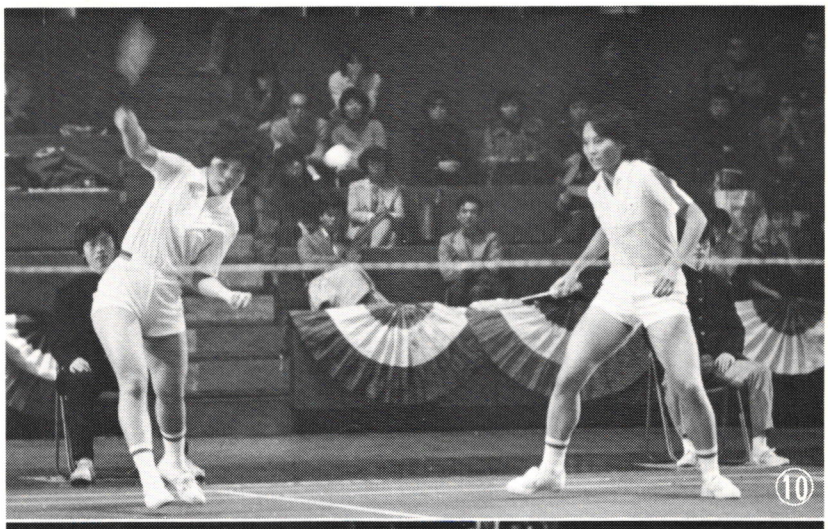

⑨

⑦同じく湯木・近藤組。湯木のヘアピンだが、打点も低くあまり効果的とも思えない。もう一歩の突込みがほしい。このあたりが2位に甘んじたゆえんか。

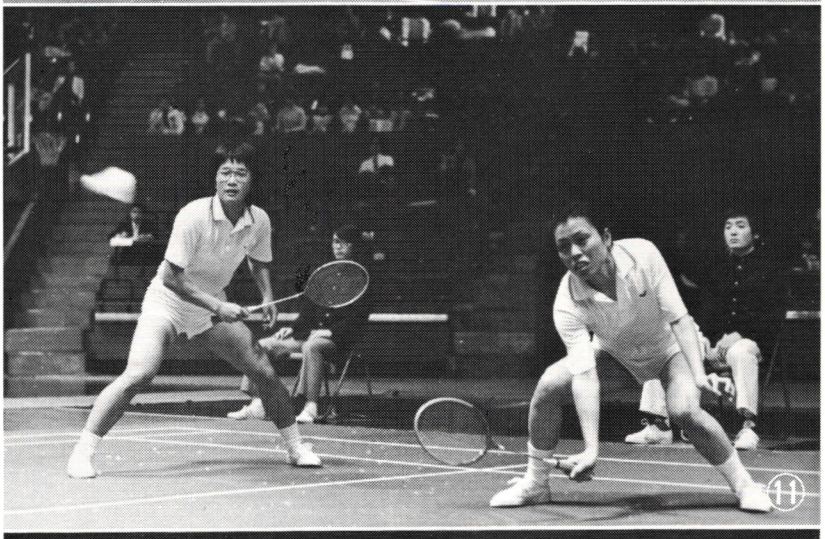
⑧日下・牛田組。日下が後衛からネット前へ落とすところ。優勝ペアというものは、さすがに表情がイキイキしている。牛田もすぐ動ける体勢にある。

⑨銭谷選手のネットプレー。余裕をもったフットワークであり、十分に相手の動きを見て返そうといったところ。

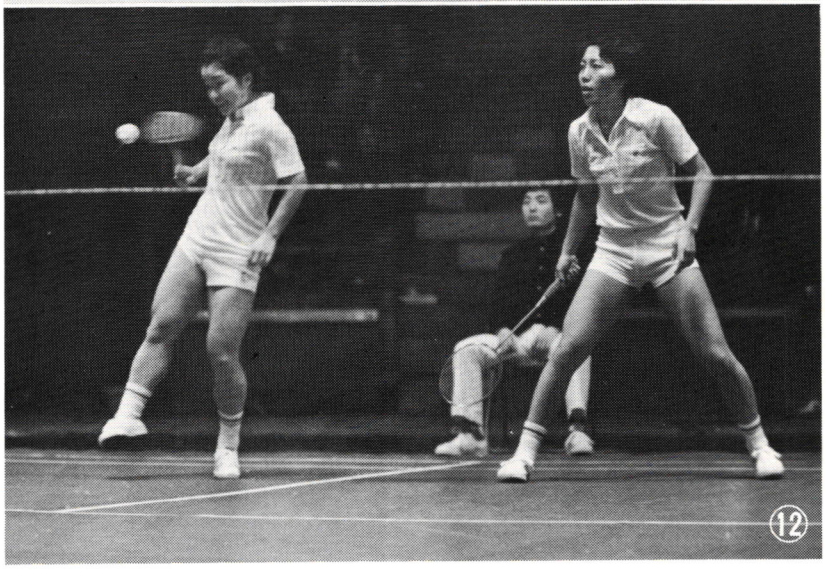
スマッシュ・レシーブ



⑩ダブルス優勝の徳田・高田組（サントリー）。高田がボディアタックのスマッシュをうまく返球している。体をかわす間がなく足は宙に浮いているが、シャトルをうまくミートした。

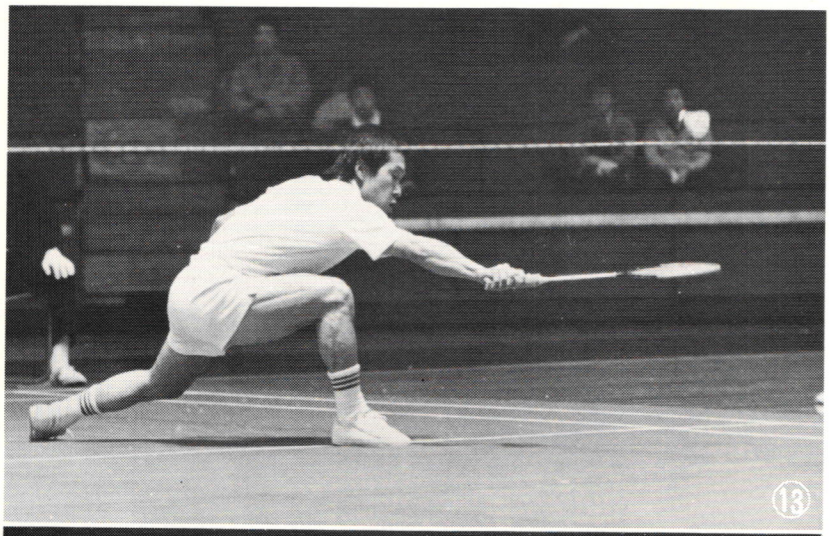


⑪湯木・近藤組。けんめいに湯木はレシーブしたものの、ラケットはすでに床スレスレ。シャトルの軌道も低く、うまくネットを越えたかどうか。

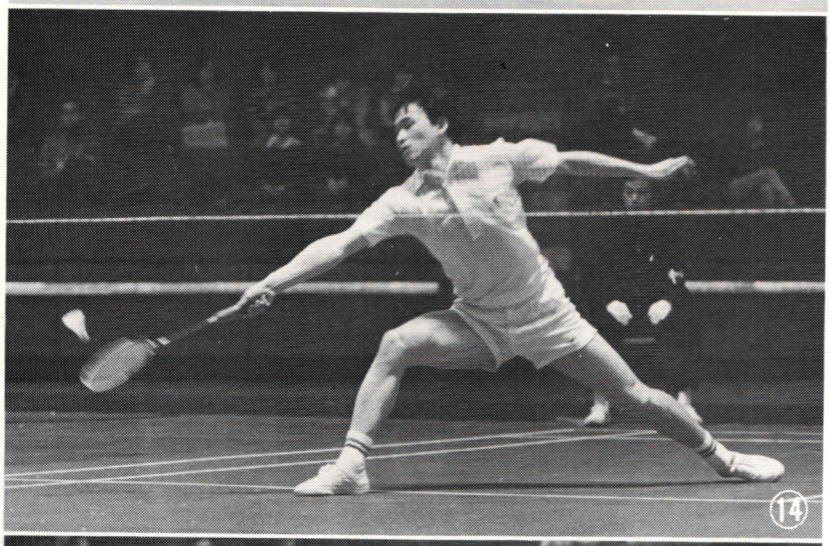


⑫ダブルス3位の谷・秋本幸組（サントリー）。秋本の俊敏な動きは定評のあるところ。体近くのむずかしい球だが、うまくウィービングしてレシーブ。

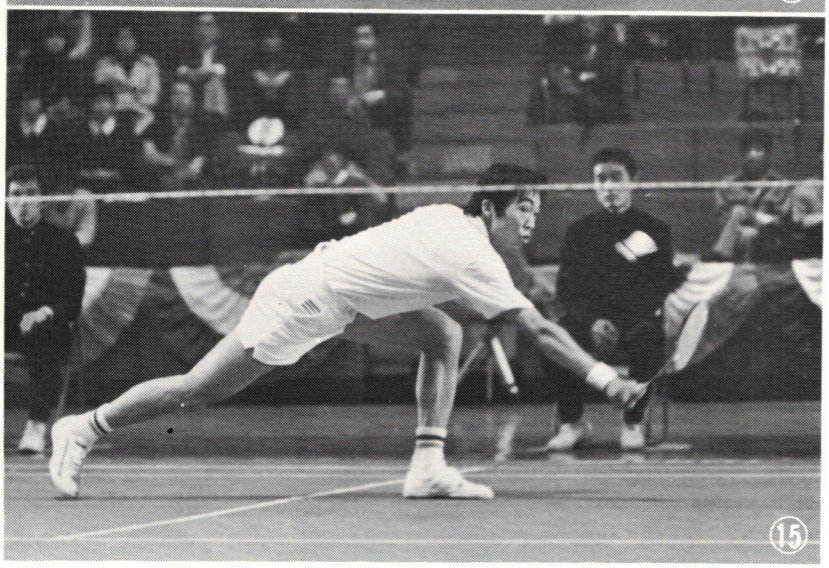
サイドのレシーブ



⑬シングルス3位の小島一平選手(ラケットショップ元町)。小柄ゆえ体をいっぱいに使って対抗。左足を軸にホームポジションに戻れる体勢は万全。バランスのとれたきれいなフォームである。



⑭谷口選手は、大型プレーヤー特有の体の固さがあるが、このレシーブも、もう少しひざを柔軟に使えば、といったところ。



⑮銭谷選手のバックサイドのレシーブ。足は完全に逆足となっているが、これもリーチのある大型プレーヤーならではのこと。

好評発売中

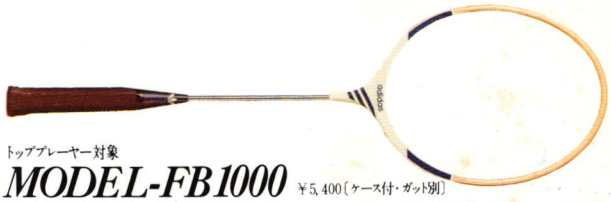
BADMINTON RACKET



スポーツシューズを始め、スポーティンググッズの幅広い分野で今や世界を独走するadidas®。そのスポーツを知りぬいたadidas®の本格バトミントンラケットが今、多くのファンを集めています。素材の持ち味をくまなく生かした各パーツ。バドミントンを徹底科学した機能的なフォーム。もちろん一流プレーヤーの『ここをこうしたい』という熱望をすみずみに取り入れたadidas®。パワーとテクニックを見事に両立させた最新鋭の1本1本、いち早く馴染むのがライバルを泣かせる秘訣。

バランスの良さ。なじむグリップ。この軽さ。デビューが待たれたadidas®の1本1本。

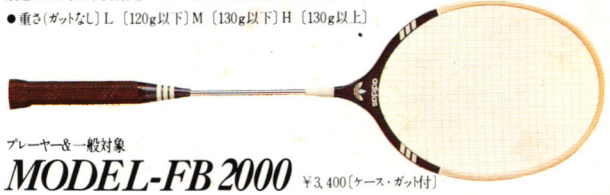




トッププレーヤー対象

MODEL-FB1000 ¥5,400〔ケース付・ガット別〕

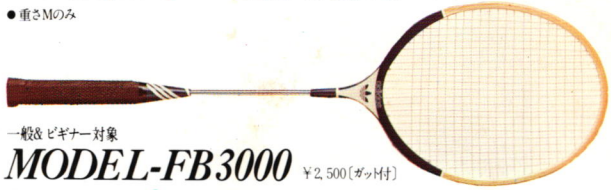
⊙テーパードシャフト先細・手元太でロングなシャフト。思いきり振りきれ、素晴しい球離れが特長です。⊙フレーム 柔軟性と剛性をあわせもった合板フレーム。ガットが張りやすく、同時にガット張りによる変形がないのが決め手です。素材は特に厳選された高級木質材。⊙グリップ 手にしっくりと馴染む高級牛皮グリップ。● グリップサイズG2〔太〕・G3〔中〕・G4〔細〕● 重さ〔ガットなし〕L〔120g以下〕M〔130g以下〕H〔130g以上〕



プレーヤー&一般対象

MODEL-FB2000 ¥3,400〔ケース・ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム やはり強度と柔かさを兼ねそなえた合板フレーム。吟味された高級材質の堅さがラケットの変形を防ぎます ⊙グリップ 牛皮を使用し触感、密着感に優れています。 ● グリップサイズG3のみ ● 重さMのみ



一般&ビギナー対象

MODEL-FB3000 ¥2,500〔ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム 丹念にセレクトされた木質素材の合板フレームで強度を確保しました。⊙グリップ グリップには手に馴染みの良い牛皮を使用 ● グリップサイズG3のみ ● 重さMのみ

adidas®

MADE UNDER ADIDAS LICENSE

● お求めはadidas特約店で。

製造業者 KG 兼松江商株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431

発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(橋本ビル) ☎03-295-5611

SUPER RUSH

いま うわさの……



S-76 スーパーラッシュ

極細の特殊加工スチールテーパーシャフト使用。
反発力が一段と増し、抜群の攻撃力が生まれプレーヤーの持っている力を十二分に発揮出来るすばらしいパートナーが出現しました。

play with...

SunBatta

第1回フジ杯三多摩地区ジュニア・シングルス大会

北風もなんのその

全国でも珍しいジュニアだけの大会

もう昨年のことになりますが、全国でも珍しいジュニアだけの大会〝第1回フジ杯三多摩地区ジュニアシングルス大会〟が、暮れも押し迫った12月25日から3日間、東京都小平市協会の主催により開催されました。

当日は、朝からの寒風にも負けない約千人のジュニア達で大盛況。コートから溢れた者は屋外へ飛び出し、ドライブ練習に興じるなど〝若さ〟いっぱいの風景を繰り広げていました。

（於・ブリヂストンタイヤ体育館）

◆小学生の部・女子

▽準々決勝

由　利1（15―4）0勝　目

林　1（15―11）0高　橋

林晴美1（15―2）0近　藤

田　丸1（18―17）0中曽根

▽準決勝

由　利1（15―1）0林

林晴美1（15―3）0田　丸

▽決勝

由　利1（15―5）0林晴美

◆中学生の部・女子

▽準々決勝

福　田2（11―4　11―1）0家

先輩に指導されながら審判も覚えます▶





▲コートが空くと「それッ練習だ」



小さくても負けないわよ!!▶

◆高校生の部・女子

▽準々決勝

宮内2 (11 11) 4 2 石谷0

森田2 (11 11) 2 3 岡田0

中西2 (11 11) 0 1 小野0

▽準決勝

福田2 (11 11) 7 3 宮内0

森田2 (11 12 5) 5 10 11 中西1

▽決勝

福田2 (11 11) 6 1 森田0

◆中学生の部・男子

▽準々決勝

村山2 (11 3 11 5) 11 5 11 清水1

永島2 (11 11) 4 2 西沢0

加室2 (12 2 11 8) 11 8 佐藤1

加藤2 (11 11) 2 4 牛島0

▽準決勝

村山2 (15 15) 4 8 永島0

加藤2 (15 18 13) 1 13 加室0

▽決勝

加藤2 (15 15) 11 6 村山0

◆高校生の部・男子

▽準々決勝

上田2 (15 15) 1 2 鹿島0

長沼2 (15 15 6) 11 14 15 根岸1

渡辺2 (15 15) 1 1 宇田川0

石田2 (17 17) 16 16 居迫0

▽準決勝

上田2 (15 15) 3 1 長沼0

渡辺2 (15 15) 2 12 石田0

▽決勝

上田2 (15 15) 2 11 渡辺0

本橋2 (11 11) 7 9 辰巳0

▽準々決勝

辰巳2 (11 11) 2 5 須藤0

本橋2 (11 11) 1 7 麻生0

▽準決勝

辰巳2 (11 11) 4 5 橋本0

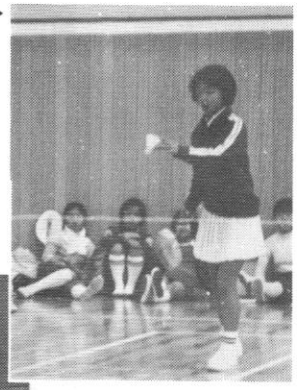
須藤2 (11 12 5) 4 10 11 高橋1

麻生2 (11 11) 3 3 倉井0

本橋2 (11 11) 0 2 山田0

▽準々決勝

小学生・女子の部1位由利さん▶



◀中学生・女子の部1位福田さん



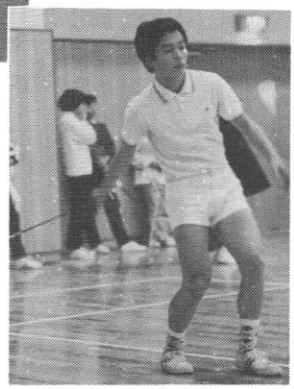
▼高校生・男子の部上位入賞のみなさん



◀高校生・女子の部1位本橋さん



中学生・男子の部1位加藤君▶



分析シリーズ①

バドミントンの時間分析

日本体育大学女子監督　関根　義雄
国分寺市バドミントン協会　平川　卓弘

〈はじめに〉

バドミントンの一試合に要する時間は、平均30分くらいだということがわかっています。ですから大会などで主催者がタイムテーブルを組むとき、この30分をもとに計算して、ほぼ、予定通り進行してゆくことができます。しかし、各試合を細かく見ると試合時間の予測もかなりむずかしく、初心者やベテラン同士の対戦などで接戦になると一時間にも及ぶこともあって、大会の進行係が頭を痛める種になっています。それでも平均的な試合時間というものは、多くの関係者の頭の中で、わかっています。

そこで、個々の試合で対戦中のゲーム内容がどんな時間経過で展開されているかということになると、知っている人が意外に少ないようです。

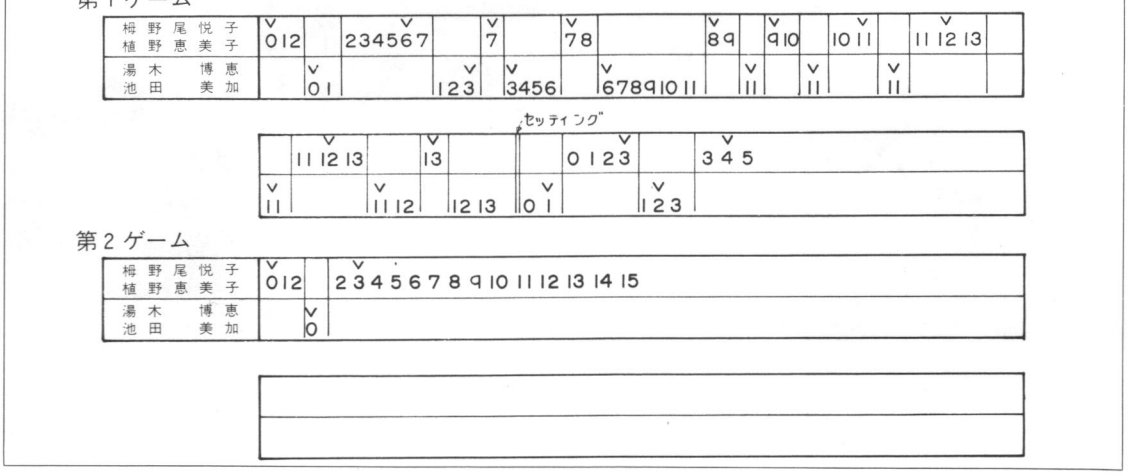
今回は、ゲームが開始されてから終了するまでのすべての時間を、秒単位で分析してみたらどんな様子になるか調べてみました。

●分析1 ゲームの時間内容

ここに示した例は、昭和51年12月におこなわれたオールジャパン決勝戦のうち、大接戦をおこなった女子ダブルス決勝、栂野尾・植野組対湯木・池田組の対戦を、2ゲームとも全内容を分析したものです。

図―1は通常おこなわれているスコアのつ

図1・昭和51年度全日本総合選手権大会(女子ダブルス決勝戦)

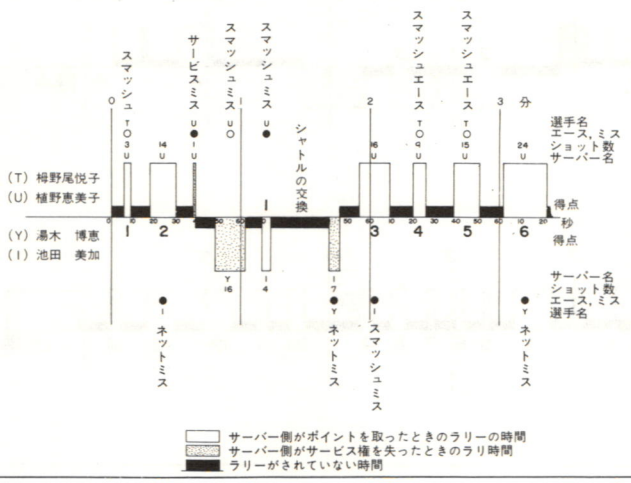


け方で試合結果を示したものです。試合の結果18―16、15―0のストレートで栂野尾・植野組が優勝して昭和50年度に続いて連続2度目のタイトルを取った、内容のすばらしい試合としてファンの脳裡に焼きついています。50年植野が初めて出場して優勝した時は、同じ対戦でフルゲームの末、とても長い時間をかけての勝利でしたが51年度は1ゲーム目こそ接戦しましたが、2ゲーム目はストレートの楽勝でした。この栂野尾・植野組が昭和52年5月3日～8日に、スウェーデンでおこなわれた第一回世界選手権大会において女子ダブルス世界チャンピオンの座にかがやいたことは記憶に新しいことです。

図―2は、この昭和51年度女子決勝の試合の様子を1秒単位で分析したものです。横軸に時間の経過を示してあります。たてに入っている細い線は1分ごとの時間区切りです。中央の部分にある黒い帯はシャトルを打っていない時間（インプレー以外の時間）で選手の身体が休んでいる時間を示してあります。帯が上にあるときは上のチームがサービス権を持っているとき、帯が下に示してあるものは、下のチームがサービス権を持っているときの時間経過を示してあります。

白ヌキの長い柱と、柱の中に黒い点のついた柱はラリーが続いた時間を横幅の広さで表わしてあります。柱の高さは見やすくするためのもので何の意味もありません。白ヌキの柱は、サービス権を持っているチームがポイントを取得したことを示し、黒い点のある柱は、そのサーバーがサービス権を失ったとき

図2・試合内容と時間経過



の、それぞれのラリー時間を示してあります。柱の上に、そのラリーの内容を示しておきました。上下各チームとも内側から外に向って対称になっています。最も内側にサーバー名、次が一回のラリー中のショット数、続いてラリーがエースで終ったかミスで終ったかの区別、その時の選手名と決定打の理由の順で示してあります。

読み方の解説

（図―2に従って説明します）

1．主審のラブオールプレーのコールによって試合が開始されました。栂野尾・植野組がサービス権をもっています。

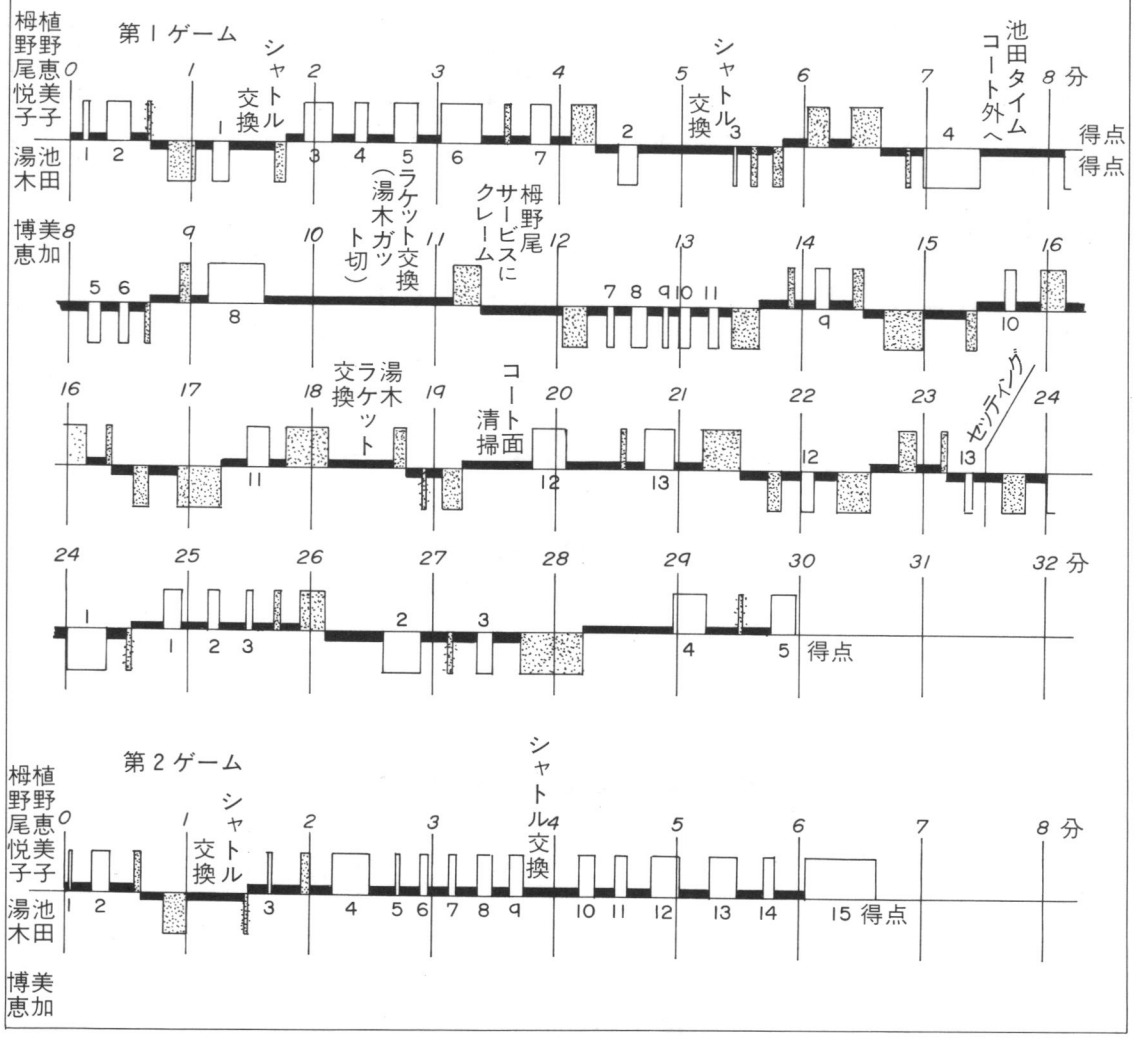
2．審判のコールから6秒後に植野（U）が最初のサービスを打ちました。湯木がリターンした球を栂野尾がスマッシュエースしました。まず、ワンポイント先取、ラリーは3秒間3ショットで終っています。ゲームカウント1―0です。

3．9秒後に植野が引き続いてサービスをしました。12秒間14ショットのはげしいラリーの後、池田（I）のネットミスによって栂野尾・植野組ポイントで2―0とリードしました。

4．8秒後に植野サービスをしたが、サービスミスにより、サービスオーバーとなる。（植野サービス、ラリーは1ショット、植野のミスによりサービスミスと読む）

5．サービス権が湯木・池田組に移りました。9秒後に湯木（Y）のサービス14秒間16本のラリーの後、植野のスマッシュ・エースによって湯木がサービス権を失いました。

図3・昭和51年度全日本総合選手権大会（女子ダブルス決勝戦）



セカンドサーバーの池田へサービスが移ります。

6．8秒後、池田がサービス、4本のラリーの後、植野のスマッシュミスにより、ワンポイント取得、カウント1―2となりました。

7．ここで、シャトルの交換です。シャトルの選択に27秒間費やしました。

8．カウント1―2、池田のセカンドサービスでゲーム再開、5秒間7本のはげしい打ち合いで湯木がネットミスしてサービスオーバーです。

9．サービス権が梅野尾・植野組に移り、9秒後植野がサービス、14秒間16本のラリーの打ち合いで池田がスマッシュミス、梅野尾・植野組がポイントとなりカウント3―1となる。

10．以下略します。

（という具合に展開してゆくわけです。）

♥　♥　♥　♥

図―3は、この試合をすべて記録したものです。図の見方は前図と同様です。この図―3は前図の細かい説明を省き、時間経過とラリーの長さのみを示したものです。図の中に長いゲームの中断がありますが、その個所には必要に応じて注釈を入れておきました。

図でおわかりの通り、最も長く続いたラリー時間は、2ゲーム目のマッチポイントのところで35秒間でした。このほかでは1ゲーム目のセッティング中で3―3のとき31秒間が1回、他に28秒間2回などがあります。このようにトッププレーヤーの対戦では男女ともしばしば、長い間の打ち合いが続くことがあ

ります。

前年度昭和50年のオールジャパン、女子ダブルス決勝戦では、全く同じメンバーの対戦中で、3ゲーム目に52秒間続いたラリーが1回ありました。他に50秒1回、35秒2回、32秒1回、30秒2回、29、28秒各1回と非常に長時間の戦いが記録されています。この3ゲーム目だけでも1ゲーム25分間かかったという大試合でした。

図を見て感じることは、ラリーを打ち合っている時間が想像以上に長いものであるということです。私達が実際にゲームを観戦しているときは、プレーに目を奪われて、どのくらいの時間ラリーが続いたのか、よく覚えていませんし、意識もしていません。せいぜい「良い打ち合いだったなあ」とか「うまいもんだなあ」といった感覚的な記憶に留まる程度です。

●分析2 ラリー時間の分析

図―4は、ダブルスゲームのラリー時間をゲームごとに比較したものです。横軸に1回のラリーが継続した時間を示し、たて軸にそのラリーが何回あったかを示してあります。

図4―1は、今まで調べてきた昭和51年度オールジャパン、女子ダブルス決勝戦です。ほかの図にくらべて右の方へだらだらと長く伸びているのが目につきます。これは長いラリーが多かったことを示しています。見方を変えると、これら一流の選手はレシーブする力量が非常に優れているため、攻めても、攻められても各選手ともなかなかつぶれない技量の持ち主であるといえましょう。また同時に、このようにきびしい戦いに充分耐え得る体力の持ち主であることもうかがえます。

図4―2は、男子の例です。昭和52年2月にヨーロッパ選抜選手を招待したときのものです。甲府でおこなわれた対戦のうち、全英の覇者、キールストロム・フローマン組対、池田・栂野尾組の対戦のものです。この中から第2、第3ゲームを分析したものを示しました。前掲の女子の場合と同様に長時間のラリーがあることは、同じ解釈でよいと思いますが、反面、比較的短い時間に結論が出ている例が多いことに気がつきます。男子の場合には、鋭いストロークから出るスピードの速いフライトのためゲーム展開が速く、守備力よりも、むしろ攻撃力の方が強力であるためにこのような結果になると思います。

このような男女の体力の差からくる攻撃のパターンの違いは、シングルスの戦法でも、はっきりとうかがうことができます。

図4―3は、N大学女子学生（1部リーグの選手）のオープン戦のものです。前掲、男子の型に似ていますが、分析してみると内容がだいぶちがっています。図のように短時間に勝負がつくのは攻撃力が強いというよりもむしろ、ミスが先行するために短いのだということがわかってきます。ミスによってラリーが中断する例は、技量が劣るほど多くなります。

図4―4、および図4―5でさらに明らか

図4・ダブルスゲームにおけるラリー時間と発生頻度

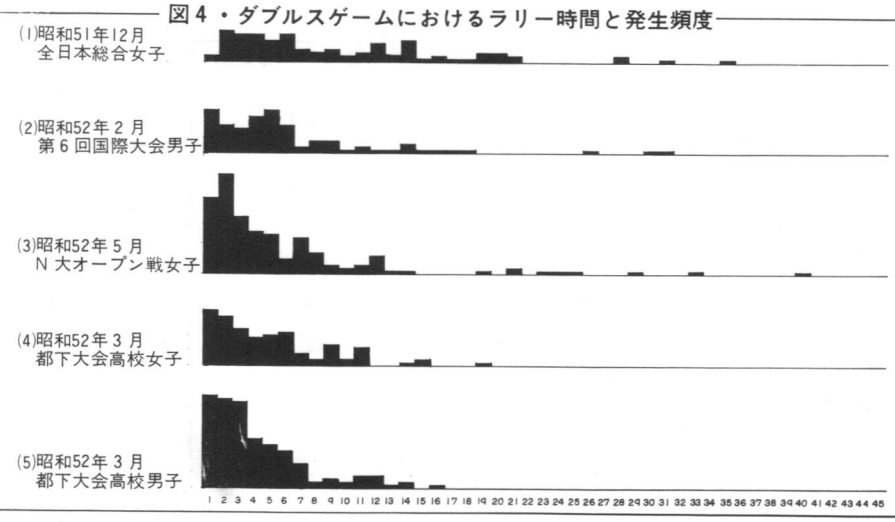
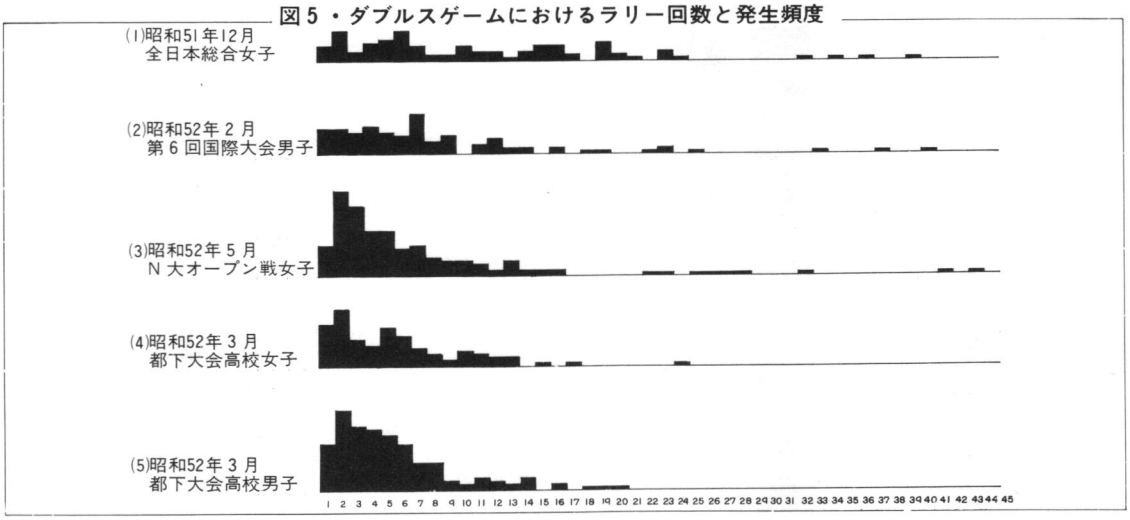


図5・ダブルスゲームにおけるラリー回数と発生頻度



になります。図4—4は女子、図4—5は男子の高校生の例です。いずれも、昭和52年4月に東京都下の高校生の間でおこなわれた「三多摩ジュニア選手権」ダブルス戦決勝のものです。女子の場合、勝者側の一人の選手が足の故障で意識して攻撃をおさえていたために、ラリーに比較的長いものが含まれていますが自然な状態では更に短い時間で終ったと考えられます。

図4—5の男子は、攻撃力が勝り、また、ミスが多いために、ラリー時間がきわめて短く終っていることをよく示しています。

●分析3 ラリーの本数でみた結果

図—5は、図—4と同一の試合をラリー数で示したものです。

バドミントンのラリーは、平均的な値でみると、一般に1ショット1秒弱でおこなわれていることがわかります。また、技量の劣る者ほど、サービスに関連したミスが多く目立ち1秒から3秒で決る例が非常に多く見られます。

今までに示してきた5例のラリー時間とインターバル時間を表—1に示します。

〈まとめ〉

以上のことから、ごく大ざっぱに判断すると、一流の選手は、はげしいラリーに耐え得るための十分な体力、精神力を持っていると、一方、技量の劣る者は、ミスショットでゲームが進行しているようだということがわかります。

時間の上で判断すると、一流選手のようにレシーブする技量のすぐれている選手の対戦や、攻撃の仕方を知らない初心者の対戦は、時間が長くかかり、技量の差のある者の対戦やレシーブ力の弱い者のゲームは比較的早く終る理由も推し計ることができます。

表1

	ラリー時間	インターバル時間
女子ダブルス 昭和51年度全日本総合選手権大会決勝	9,2 (秒)	12,4 (秒)
男子ダブルス 第6回国際競技大会・甲府大会	6,2	11,0
女子学生ダブルス N大学オープン戦	5,1	8,4
女子高校ダブルス 都下大会決勝	5,0	10,9
男子高校ダブルス 都下大会決勝	5,2	10,3

(注) ラリー時間＝サービスが打たれてからインプレーでなくなるまで。
インターバル時間＝シャトルがインプレーでなくなってから、次のサービスが打たれるまで。

写真をお分けいたします

最近、読者の皆様から本誌掲載の写真を譲ってほしいという要望が多くなっております。そこで本誌では、次のような要領でお分けいたします。

◆写真の大きさ

Ⓐキャビネ判プリント（12センチ×16センチ）

Ⓑ四つ切パネル貼り（25センチ×30センチ）

いずれもモノクロのみ

◆料金

Ⓐキャビネ判プリント＝1枚につき一〇〇〇円

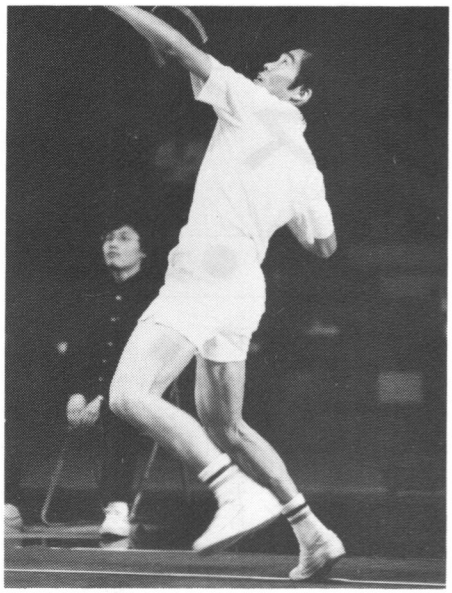
Ⓑ四つ切パネル貼り＝1枚につき三〇〇〇円

◆お申込み方法

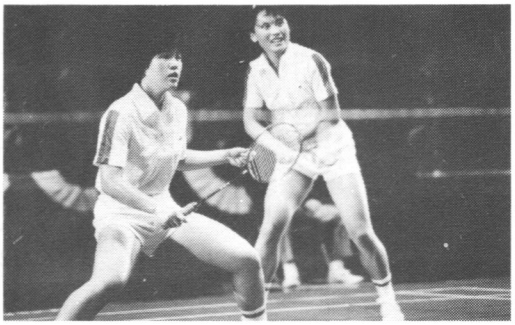
本誌とじ込み振替用紙通信欄に、写真の大きさと、写真番号、枚数を明記のうえ、お近くの郵便局から料金を添えてお申し込みください。送料は編集部で負担。

◆今月お分けできる写真は、このページのものです。毎月、前月号掲載のもののなかから、何点かを選んで、この欄で発表します。

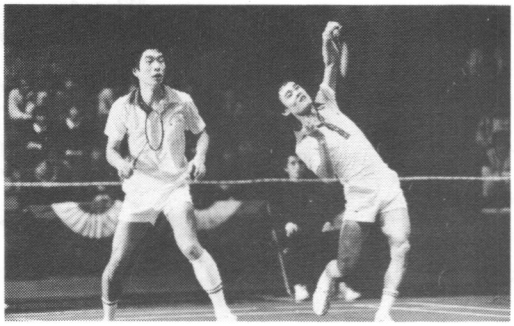
☆なお、印刷物（ポスター、プログラム、雑誌、書籍など）にご使用になる場合には、45ページの要領で貸出しも行っております。



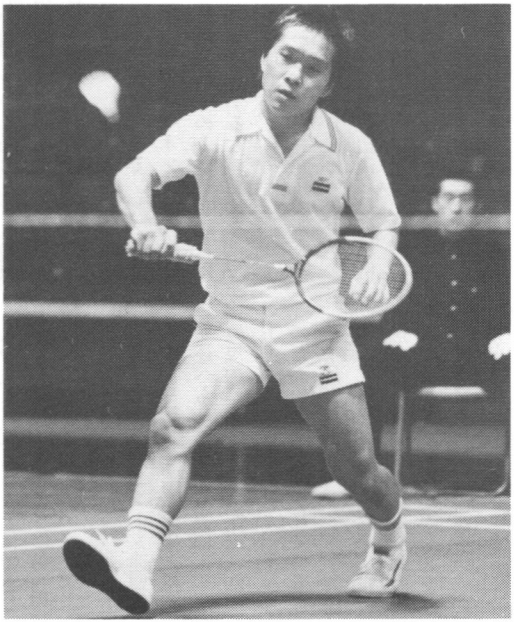
① 銭谷選手



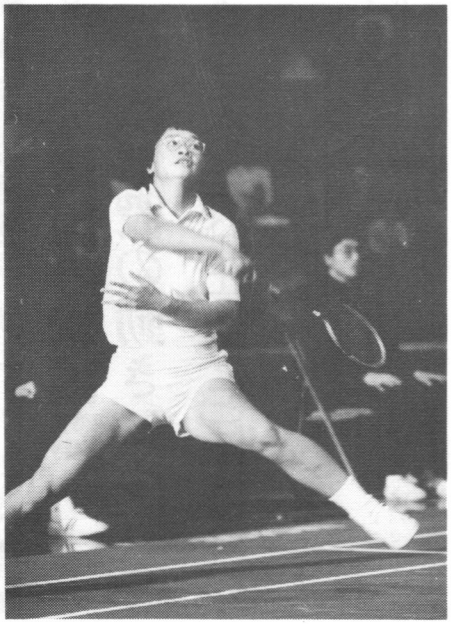
② 徳田・高田組



③ 飯野・土田組



④ 小島選手



⑤ 近藤選手

〈トリミングはこれとやや異なることがあります〉

海外トピックス

●友枝康子

世界チャンピオン相次いで敗る

◆ニュージーランド招待トーナメント

ニュージーランド、バドミントン連盟五〇周年を記念して、国際招待トーナメントが、去る7月、オークランドで開かれ、9か国から18名が参加。

呼び物は、デンマークからの、男子および女子世界シングルス選手権保持者である、フレミング・デルフスとリーン・コーペン両名の参加だった。

一大センセーションを捲き起こしたのは、男子シングルス準決勝で、デルフスがマレーシアのプアー・アー・ファに敗北を喫したことだった。デルフスは一言も言い訳をしなかったが、インフルエンザのため、予定されていたダブルス出場は見合わせた。この結果、ダブルス決勝はニュージーランド勢の同士討ちとなり、若手ウィルソン、プレン組が先輩リヴィングストン、パーサー組を破った。またシングルスでは、プアー・アー・ファは、決勝でタイのバンディッド・ジャイエンに敗れた。

一方、女子シングルスでも、準決勝でチャンピオンのコーペンがオランダのバン・ビューセコムに敗れるという番狂わせが起り、ますます調子を上げたビューセコムは、決勝で、日本からの近藤小織を降して優勝した。各種目の決勝スコアは左の通り。

◆男子シングルス
ジャイエン（タイ）15—6、15—4　プアー・アー・ファ（マレーシア）

◆女子シングルス
バン・ビューセコム（オランダ）4—11、11—2、12—11　近藤（日本）

◆男子ダブルス
プレン、ウィルソン組（ニュージーランド）15—6、1—15、15—11　パーサー、リヴィングストン組

◆女子ダブルス
コーペン（デンマーク）、ビューセコム（オランダ）組　15—8、15—5　近藤、徳田組（日本）

（ワールド・バドミントン　十月〜十一月号）

◆台湾のIBF会員資格確認

アジア諸国の新国際組織創設の動きについて

〝誰も二人の主人に仕えることはできない〟

昨年九月ロンドンで開かれたIBF臨時総会で、台湾バドミントン協会ROCの追放動議は19対36で否決された。本誌十二月号既報のとおり、これは英国高等法院判決の後をうけて、理事会名によって提出された動議だったが、この結果、台湾のIBF会員資格が確認されたことになる。

席上、台湾バドミントン協会代表C・Y・ウォン氏は、ROCは中国本土のIBF参加には決して反対するものではないことを表明した。

しかし、イラン在住のイギリス人エイヴェリ氏は、アジア・バドミントン連盟ABC所属機関からただ一人の総会出席者だが、こう言明している。もし台湾がIBFにとどまるならば、その他のアジア機関は、ためらうことなく別の総合機関結成に動く、と。

この後無記名で採決が行われ前述の結果となったが、19名の棄権があった。

こう「ワールド・バドミントン」誌は総会の模様を報じているが、同誌の論説では「誰も二人の主人に仕えることはできない」と題して次のように言っている。

アジア・バドミントン連盟代表による新しい国際機構の構想が述べられたが、現実には、その規約草案はすでに作成されており、この総会直後、計画進展のための会議が開かれている。

十月、「世界バドミントン連盟」（WBF）設立のため、「世界選手権」トーナメント発足させるに当って、IBFの全メンバーにクアラルンプール会議への招請状が送られた。

IBF競技規則によれば、加盟メンバーは、その所属プレーヤーに対して、非参加機関主催

の競技会には、特別の許可なくしては参加を許さない。現在までにその要求はまだ一件も出ていないし、もし要求があっても、不許可にならざるを得ないだろう。認められない競技に参加したプレーヤーは、同規則によって国内のオープン選手権あるいは国際競技参加を禁止されるだろう。

各国機関は、IBFに残るか、脱会して新機関に加わるかを自身で決定することを迫られている。

（ワールド・バドミントン　一九七七年十～十一月号）

IBFの会員数　集計なる

昨秋IBFが会員に求めたアンケート調査の結果、各国会員機関のプレーヤー数が明らかになった。一部無回答国についてはIBFの算定数を報告している。

現在正会員55機関、準会員11のうち、現情勢から連絡の途絶えているカンボジア、ベトナム、ラオスは除かれている。

この結果プレーヤー総数はおよそ82万人に達することがわかった。二年前の発表数に比べて10万人、14%を超える増加となり、短期間にめざましい発展が見られたことになる。最も伸びたのは、インドネシアの4万人、カナダの3万人、逆に大幅に減少の著しいのはソ連の5万人。日本は6千人の増となっている。

（ワールド・バドミントン　一九七七年十～十一月号）

国別プレーヤー数

オーストラリア	11,542	ニュージーランド	20,500
オーストリア	2,075	ナイジェリア	1,500
ベルギー	1,975	ノルウェー	3,780
ビルマ	2,850	パキスタン	12,000
カナダ	48,725	ペルー	※1,000
チェコスロバキア	3,640	フィリピン	※1～3,000
デンマーク	104,144	ポーランド	752
イングランド	99,865	ポルトガル	1,040
フィンランド	925	スコットランド	11,065
フランス	1,990	シンガポール	※10～15,000
東ドイツ	14,912	南アフリカ	12,000
西ドイツ	44,208	スリランカ	1,333
ガイアナ	556	スリナム	505
香港	4,999	スウェーデン	21,179
ハンガリー	1,590	スイス	1,770
アイスランド	2,600	台湾	31,800
インド	11,000	タンザニア	1,500
インドネシア	110,000	タイ	15～25,000
イラン	5,000	トリニダド・トバゴ	※200
アイルランド	18,000	アメリカ	1,161
ジャマイカ	500	ソ連	※50,000
日本	40,862	ウェールズ	4,000
ケニア	850	ザンビア	750
韓国	※8,000	（準会員）	
北朝鮮	955	バミューダ	130
マレーシア	15,000	ガテマラ	100
マルタ	510	イスラエル	50
メキシコ	5,500	スロヴェニア	500
ネパール	1,500	ベネゼラ	11
オランダ	40,000		

※　無回答のため、理事会による推定数。

ユーバー杯に向けて

イングランド

来たるべき女子世界選手権ユーバー杯大会に備えて、十月のイングランド招待シングルス選手権大会はことに興味深かった。

ギルクス夫人の国際競技不参加の表明と、同じくトップ・クラスのロックウッド夫人のひざの手術の思わしくないことからの不参加がとりわけ注目を集めていた。

女子シングルスはポーラ・キルビントンが優勝。オーストラリア、極東遠征の経験からかなり力をつけてきている。彼女のシングルス出場は間違いないと思われる。昨シーズンはシングルス不参加のペリー夫人、旧姓ノラ・ガードナーのシングルス再登場も興味をひいた。彼女は、ジェーン・ウェブスターに圧倒的勝利をおさめた。成績は次のとおり。

◆準決勝

N・ペリー　11―6、4―11、11―6　J・ウェブスター

P・キルビントン　11―5、11―0　K・ホワイティング

◆決勝

キルビントン　11―1、11―3　ペリー

（ワールド・バドミントン　一九七七年十～十一月号）

カナダ

十二月二十七日から三十一日まで、トロントのストラースゴワン・クラブは、ユーバー杯カナダ・チームのトレーニング・キャンプ場となった。

十名のナショナル・チーム・メンバーを含む十三名のプレーヤーが十一月はじめに選ばれて参加した。クレア・バックハウス、ウェンディ・クラークソン、シャロン・クローフォード、サリー・ディキン、ポーリン・ドライル、ジョハーナ・ファラールドウ、レズリー・ハリス、マーゴット・ミルズ、トレイシー・ヴァン・ヴァセンホーヴ、ジェーン・ヤングバーグのナショナル・チームのほかに、シェリ・ボイス、リン・グーディ、バーバラ・オブライエンの三名。このほかに、十二月に入って三名の追加指名があったはずである。

候補者は、最終決定が行われる一月半ばまでに、できる限り多くの競技に参加するよう勧められた。

（カナダ・バドミントン協会ニューズレター　一九七七年十一月号）

読者からの寄稿

北から南から

いい試合を見たい

岡山市……岡本　次郎

昨年、東京で行なわれましたユーバー杯アジア東地区予選、日本対韓国の試合を、はるばる岡山から日帰りで見学に行きました。

その時、痛切に感じたことをお便りいたします。

ゲームの内容はさておくとして、一番私が感じ、かつ残念に思ったのは、その観客数のあまりの少なさです。とりたてて数えはしなかったものの、来賓の方、業者の方、あるいは一部の学生さんなどを除くと、何人の観衆がいたことでしょうか。

梅野尾選手欠場ということで、実際は危険信号もともっていたらしいのですが、一般的にみて日本楽勝という見方があったからムードが盛り上がらなかったのでしょうか。

それとも日本バドミントン協会のPRに問題があったのでしょうか。

それとも東京のバドミントン・ファンにはアジア地区予選など、という気持があったのでしょうか。

そこで私の提案、というよりお願いなのですが、こうした大会を思い切って地方都市で開催するわけにはいかないものなのでしょうか。

東京に集中していたバドミントンの勢力分布も、サントリーの活躍などで、最近では東西にやや広がってきているのではないかと思います。が、まだまだ東京、大阪近辺に住んでいない者にとっては、トッププレーヤーのプレーをじかに見る機会は皆無であるといっても過言ではありません。ことに中学生などに「これがバドミントンだ」といえるようなプレーを見せてやることができたらなあ、と常々思っている次第です。（幸い昨年はインターハイが岡山であったので恵まれていた方でしたが……）

思い返してみますと、岡山で教職員大会が開かれた時、世界選手権者招待試合とかで小島一平さんや高木紀子（現姓中山）さんなどが模範試合をしてくださり「あんなことができるのか」と大いに感動したものでした。大学生など島根県、香川県からも愛好者が多数見学にみえ、岡山武道館が一杯になったのを覚えております。

協会の組織の大きさ、競技人口の層の厚さ、いろいろ問題もあるものと推測いたしますが、最近行なわれていたバレーボールのワールドカップが、予選リーグを東北や九州の各地方都市で開いていたのを見るにつけ、バドミントンでもこうしたことができないものか、と考える次第です。

たとえばオールスター・ダブルスとか、チャンピオンズ・トーナメントを毎年毎年代々木で開いていたのでは、全体としてのバドミントン界の発展は遅々たるものになりはしないでしょうか。

テレビの放映についても、岡山で見られる

のはNHKでのオールジャパンが1日と、インターハイが1日の、年にたったの2回です。東京12チャンネルではよく放映されているそうですが、直接大会を見られないところの者こそ、せめてテレビでも見られたら……と思います。

底辺で眠っている層を掘り起こして、バドミントン・ブームを起こす一つの手段として、地方都市にももっとテレビ放映が行なわれないものでしょうか。ことにビデオの発達している現在、これを録画できれば利用価値は非常に高いと思われます。

思いつくままに勝手なことを申しましたが、一愛好者の意見として投じてみました。

国体熱で盛り上がる

上田市バドミントン協会……高橋　邦夫

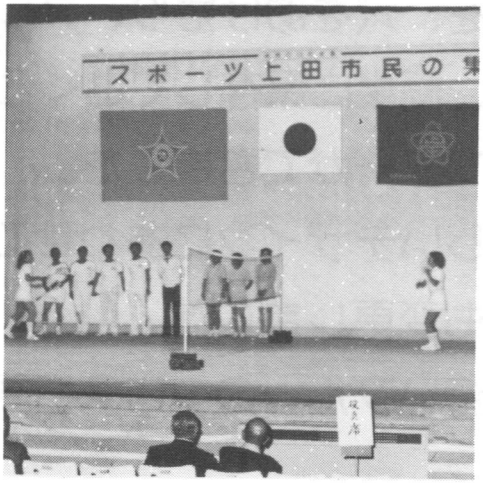
上田市では、毎年10月10日の体育の日を中心に市民総合体育大会が開かれ、野球、ソフトボール、庭球、バレーボール、バドミントンなど14競技の大会が行なわれています。

昨年で26回目を迎え、今年は長野県で国体が開催されるので、ユニークな開会式が行なわれました。

市民会館において〝スポーツ上田市民の集い〟が前夜祭として10月8日に催されました。体育功労者の表彰に続いて、4団体のスポーツが舞台の上で、参加した市民に広く披露されました。

少林寺拳法、剣道スポーツ少年団、居合道、そしてバドミントンが実技を受け持ち、各団体とも10分間、舞台の上で日頃の腕を発揮、参加者の目を楽しませました。

私たちバドミントンでは、上田のバドミントン協会が中心となって、高校生12人、社会人4人が基本打ちなど実技を紹介。さらに協会と市教育委員会で実施しているバドミントン教育の卒業生の〝六文銭クラブ〟や、ママさんクラブの紹介を行ないました。



舞台で実技を披露

市民会館の舞台なので、天井を気にしながら白鳥が飛び交うようにと、狭い中ではありましたが、強い球を長く打ち合えるように努力してみました。

座席で見ていると、シャトルを打つ音はまったく聞こえず、無声映画を見るようでした。中沢宮彦さんと森房子さんの名司会で、バドミントンの由来から実技まで、面白く語ってもった10分間の紹介でありました。

上田市では現在、毎週火曜日の市民体育館（8面）のバドミントン教室が6年目を迎え、指導者と生徒でにぎわっています。

一方、学校開放も盛んで、6校の開放校のうち第二中学校の体育館が、バドミントン専用になりました。

これまた多くの愛好者に喜ばれています。

❖写真の貸出しについて

印刷物（ポスター、プログラム、雑誌、書籍など）にご使用の場合、次の要領で写真を貸出しいたします。

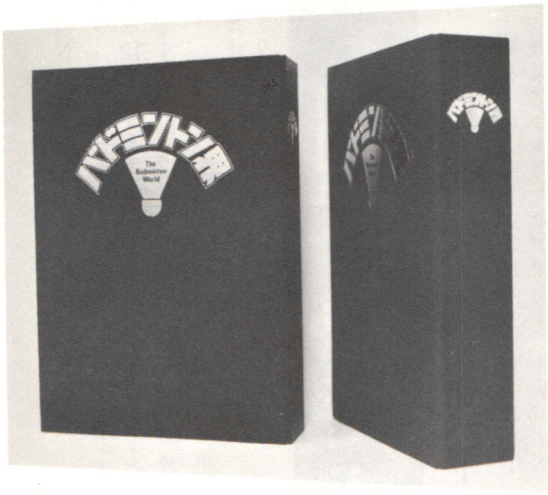
◆写真の大きさ＝モノクロ・キャビネ判（12センチ×16センチ）のみ

◆料金＝1枚につき800円

◆お申込み方法＝本誌とじ込み振替用紙通信欄に、写真番号、枚数と「貸出希望」と明記のうえ、料金を添えてお近くの郵便局からお申し込みください。送料は編集部負担。

◆今月貸出しできる写真は41ページのものです。

☆なお、各都道府県協会主催大会のポスター、プログラムにご使用になる場合、小学校、中学校、高等学校用の教科書にご使用になる場合、各官公庁で営利を目的としないものにご使用になる場合は無料です。編集部あてハガキでお申し込みください。



バドミントン界専用

合本バインダー

500円

穴あけ不要、
かんたんに、
美しく保存

本誌１年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーができました。

今年は表紙の新しいデザインにあわせて、バインダーのデザインも変更しました。

写真のように、濃いブルーのクロスに銀パクを押したものです。

１冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の荷造送料を加えて、はさみこみの振替用紙に必要事項明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

荷造送料＝１冊300円、３冊まで600円、４冊以上700円。

〒150東京都渋谷区神南１－１－１　岸記念体育会館

バドミントン界編集部

バックナンバー一覧表＝お申込みはハガキで　シメキリ＝3月31日

本誌バックナンバーの新しいリストができあがりました。本誌はそろえて保存すれば「**バドミントンの百科事典**」となります。

- **55号**＝220円　▶第5回全日本女子チャンピオンズトーナメント▶小島一平の実戦教室▶中山紀子・私の歩んできた道
- **64号**＝220円　▶第4回国際競技大会▶湯木ギルクスに快勝▶英国強し▶第6回全日本女子チャンピオンズトーナメント
- **65号**＝220円　▶小笠原母島のバドミントン▶デンマークオープン▶全日本総合団体戦
- **68号**＝220円　▶無念！ユ杯V4ならず▶湯木・中山の健闘むなし▶バドミントンに賭けた青春＝湯木博恵
- **69号**＝220円　▶ユ杯詳報▶湯木、中山マイペース▶相沢・竹中不調▶日本必死の防戦も及ばず
- **70号**＝220円　▶インターハイ▶植野女子三冠に輝く▶男子は林田が制す▶東日本学生選手権
- **71号**＝220円　▶トマス杯東地区予選日本対香港▶日本完勝▶土田初出場で重責を立派に果たす
- **72号**＝220円　▶全日本社会人選手権▶小島・湯木が優勝▶全国の指導者に望むこと
- **73号**＝220円　▶第4回日中競技会▶ヤングパワー林詩銓▶はつらつ劉霞▶中国ランキング
- **74号**＝220円　▶75年全日本総合選手権▶小島不滅の金字塔▶湯木キズだらけの四連勝▶徳田白熱の善戦
- **75号**＝220円　▶第30回国民体育大会▶神奈川が2年ぶり10度目の栄冠▶全日本学生選手権
- **76号**＝220円　▶トマス杯アジア東地区決勝日本対韓国▶日本9－0で完勝▶第5回国際競技大会
- **77号**＝220円　▶全日本総合選手権団体戦▶第7回全日本女子チャンピオンズトーナメント▶ジャカルタの新聞とユーバー杯
- **78号**＝300円　▶全英選手権大会▶ハルトノ8回目の栄冠▶ギルクスは三冠王▶第1回アジア招待大会▶スミラト中国勢を連破して優勝
- **81号**＝300円　▶学生大会集
- **82号**＝300円　インターハイ▶金沢市工、四条畷が連勝▶男子宍戸、女子石川が栄冠▶全国中学生大会▶全日本教職員選手権▶京都家庭婦人大会▶長崎家庭婦人大会
- **83号**＝300円　▶76年オールスター男子ダブルス▶全日本社会人選手権▶シャトルコックの研究
- **84号**＝300円　▶石川県家庭婦人大会▶全日本社会人選手権上位戦記録▶良好書紹介
- **85号**＝300円　▶全日本学生選手権▶第31回国民体育大会▶第3回全日本家庭婦人大会▶渋谷バードクラブ紹介
- **86号**＝300円　▶76年総決算号
- **87号**＝300円　▶日本協会の使命と今後の課題▶第5回日中大会報告▶大阪中央YMCAクラブ紹介
- **88号**＝300円　▶76年全日本総合選手権写真集▶しらぎくクラブ紹介
- **89号**＝300円　▶76年全日本総合選手権全記録▶直撃インタビュー小島一平選手は語る▶サントリーチームを訪ねて▶シャトルコックの製造工程
- **90号**＝300円　▶第6回国際競技大会▶プリ、ついにベールをぬぐ▶欧州男子、スマッシュの威力▶第5回全日本実業団対全日本学生

◆別冊①◆ユーバー杯奪還への道＝1000円
A5判128ページ、うちカラー16ページ、第7回ユーバー杯大会（ジャカルタ）全記録をはじめ、観戦記、奪還策等を満載。

◆別冊②◆ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック＝500円　B5判48ページ、うちカラー4ページ。豊富な連続写真と詳しい解説、美しいグラフで構成したすぐ役立つもの。S・プリ、F・デルフス、B・フローマン、M・ロックウッド、チュンチュン、ワジュディらのプレーを小島、栂野尾、池田、銭谷、尾崎、飯野、土田、湯木、栂野尾(悦)がわかりやすく解説。

バックナンバー、別冊のお申込みは、他の用件とは別に、必ずハガキで下記あてお申し込みください。代金は、現品到着後、当方から同封の振替用紙で1週間以内にお振り込み願います。送料は当方で負担いたします。

〈申込先〉
〒150　東京都渋谷区神南1－1－1
岸記念体育会館内・**バドミントン界編集部**
（なお、発送は集中方式となりますので、2～3週間程度かかります。また、このリストの有効期限は昭和53年3月31日までです）

募集します!!

バドミントン界編集部

①クラブ紹介

学校、地域、職場など、あなたのクラブを本誌で紹介してください。原稿用紙にタテ書きで、一行二〇字×一五〇行程度。必ず写真を添えてください。

②決定的瞬間

プレー中の写真を送ってください。大きさはキャビネ判、モノクロに限ります。

③作文

テーマは、「私とバドミントン」。原稿用紙にタテ書きで、四〇〇字詰め一〇枚以内。しめ切りは昭和五三年五月末日。

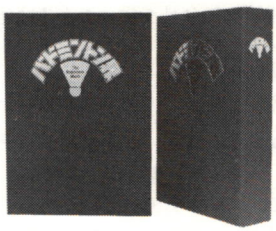
①クラブ紹介と②決定的瞬間は、順に誌上に掲載させていただきます。③は応募作文を選考のうえ、秀作五篇、佳作五篇を選び、秀作を誌上に掲載させていただきます。また採用の方には、記念品をお送りいたします。なお、応募作品はいずれもお返しできませんのであらかじめコピーをおとりください。

お願いとお知らせ

▼先月号でもお願いいたしましたが、年間購読の期限切れ通知が届きましたら、できるだけ一週間以内に、お近くの郵便局で手続きをお願いいたします。

▼また、今月も転居先不明でいくつか戻ってきました。住所変更の際には、必ず編集部あてご連絡ください。そのとき同時にお近くの郵便局に「転居届け」を出しておきますと、一年間はすべての郵便物を新住所へ転送してもらうことができます。用紙は郵便局の窓口に備えつけてありますので、ご利用ください。

▼バインダーは多くの方々からお申し込みをいただきましたが、昨年十一月頃お送りした分のうち、いくつか不良品が出ているようです。金具の取付け不良と、表紙がそり返ってしまうものの二種類です。お心あたりの方は、編集部あて不良品をお送りください。折り返し返送料をそえて、新しいものをお送りいたします。大変ご迷惑をおかけいたしました。



編集室から

◆本誌も今月号をもちまして、創刊100号を迎えることができました。

そこで今月号は、増ページいたしました。

◆国際大会は、新潟を皮切りに九州大会まで五回の対抗戦を行いました。

猛烈な寒波にもかかわらず、各地会場とも、満員のファンがつめかけ、大変な盛上りでした。

この原稿段階では、東京大会が行われているところですが、非常に多くの人々が、開場前からつめかけてくださり、準備委員会をはじめ、関係者一同感謝しております。

◆編集部でも、創刊100号を機に、スタッフの充実をはかり、とりあえず、写真現像を新進気鋭の樋口哲也君にお願いすることになりました。もちろん、樋口君はカメラマンとしても、いずれ登場することになります。

◆新聞報道でもご承知のように、昨年末から、今年にかけて、湯木博恵、栂野尾悦子、植野恵美子三選手の活躍に対し、各種表彰がありました。これについては来月号でお知らせします。

◆編集部に対するご質問や、未着などのお問合せは、ハガキでお願いいたします。編集部員は週のうち半分以上外出しておりますので。

◆では、次号をお楽しみに。

バドミントン界　通巻第100号　1978年2月号　定価 300円

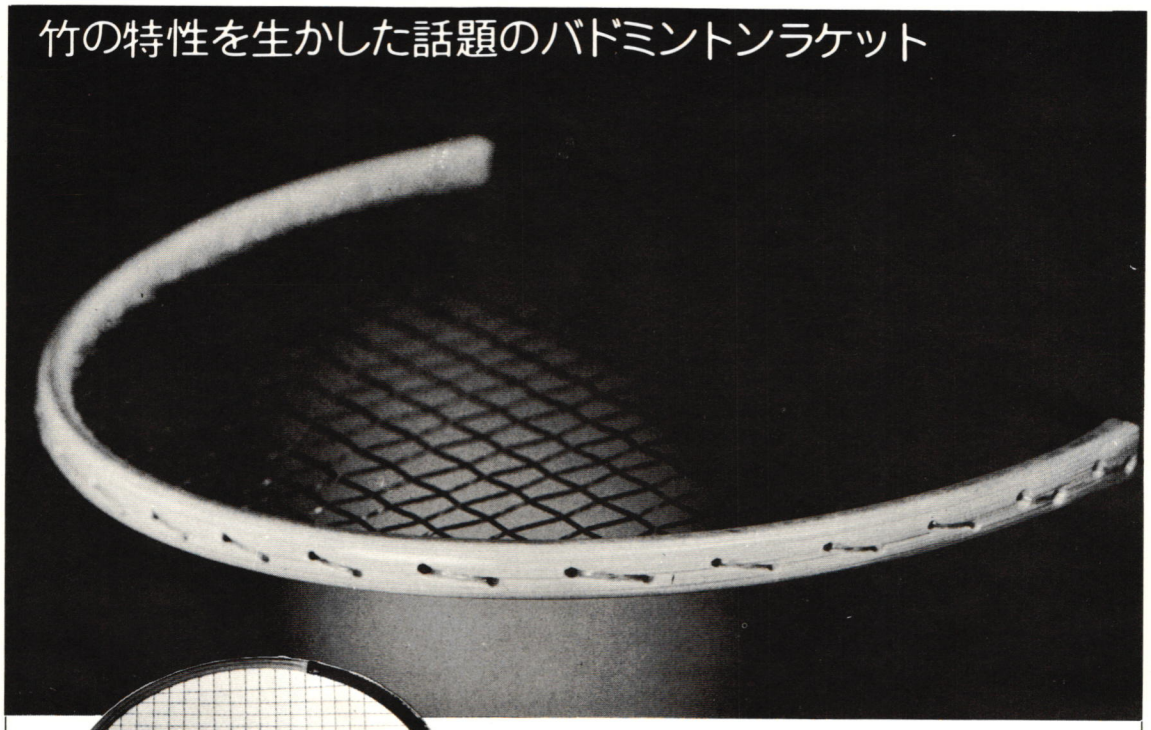
昭和53年2月15日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

©1978　無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号 150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111(代表) 内線351
振替　東京5－9525(バドミントン界編集部)

うなる打球/格調のバンブー

竹の特性を生かした話題のバドミントンラケット

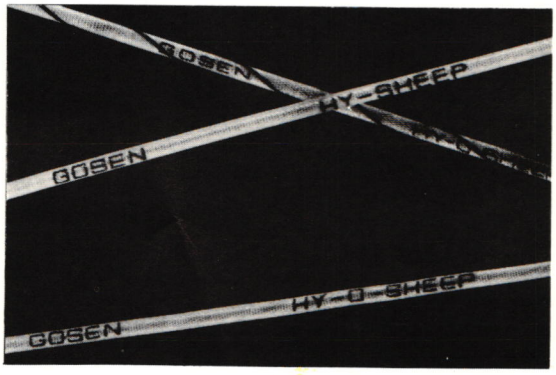




Hy-Thomas

No. B45 ハイ・トーマス(バンブー) ￥4,500　★最高級選手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付

最後まで勝ち抜くもの/品質保証のビッグなガット





HY-O-SHEEP

No. 1090/1091 ハイ・オー・シープ ￥600

油入特殊ガット最高級品選手用(アンバー・青スパイラル



HY-SHEEP

No. 1060 ハイ・シープ　￥400

選手用(アンバー・赤・青)

株式会社ゴーセン
■本　社●大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816 代
■東京支店●東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247 代

月刊「バドミントン界」2月号　昭和五十三年二月十五日発行（毎月一回十五日発行）
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一　日本バドミントン協会　定価三〇〇円



チャンスが来たぞ。

世界の一流プレイヤーが使っているヨネックスのインターナショナル製品を抽選で、10,000名の方にプレゼント。

●下記のヨネックス製品をおもとめください。

ラケット＝B1000からB9300までのラケット。
ウエア＝日本バドミントン協会推せんのすべてのウエア。そのほかウォームアップ、トレーナー、パーカー、ウインドブレーカー。
バッグ＝No.350 No.351 No.352（A・B） No.354 No.355 No.356 No.357 No.359（以上該当商品）



①バッグA（100点）
ラケット、ウエアなどが専用に納まる特製バッグ。
（※写真のうち、ラケット、ウエア、アクセサリーなどは含みません。）



②バッグB（500点）
一流プレイヤーのサイン入り。



③バドミントン・ポット（500個）
シャトルコックスタイルのシャレたポット。

④ラケットB-9100（300本）
サイン入り。
⑤ウォームアップ（100セット）
いま、断然人気のNo.118型特製。
⑥タオル（500本）
特大のスペシャルタオルです。
⑦ラケットケース（3,000枚）
特製サイン入り。
⑧ガット（5,000張）
ヨネックス高級ガット。

●抽選で10,000名の方に左の商品のうち、どれか1点をプレゼント。
これらの商品はイギリス、オランダ、スウェーデン、デンマークなどの国々で人気の高いヨネックスのインターナショナル製品です。

●ご応募の方法
おもとめになったヨネックス製品（該当商品）についている応募ハガキに、おもとめの製品の価格シールをお貼りになってお送りください。

●実施期間
昭和53年2月1日～5月31日（応募締切）

●当選発表
昭和53年6月15日 雑誌〝バドミントン界〟誌上と各参加店の店頭。なお、プレゼント商品はおもとめになったお店を通してお渡しいたします。

YONEX®